

# 令和5年度 砂山地域 住民アンケート集計結果

実施時期 : 令和5 (2023) 年春  
実施方法 : 調査票の個別配布・個別回収  
配 布 数 : 1,572通  
有効回答数 : 1,436通  
有効回答率 : **91.3%**

かなり高い回答率！（地域住民の意向がしっかりと反映されているデータ）

神林地区まちづくり協議会連絡会議／砂山地域まちづくり協議会

## 令和4年度 住民アンケート

- 本アンケートは、神林地区に暮らしている中学生以上の全住民を対象に実施するものです。一人ひとりからお考えを伺うことで、世代別・男女別の考え方・ニーズを把握・整理し、これからの取り組みに反映していきます。
- 回答は無記名でお願いします。結果は、個人が特定されない形で集計・分析します。
- アンケート用紙は、お一人ずつ提出していただきますので、家族で意見が違っても構いません。思っていることをそのまま回答してください。

問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

(年齢)	1. 中学生～19歳	2. 20～29歳	3. 30～39歳	4. 40～49歳
	5. 50～59歳	6. 60～69歳	7. 70～79歳	8. 80歳以上

(性別)	1. 男性	2. 女性
------	-------	-------

問2 家族構成について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 1人暮らし	2. 夫婦のみ	3. 二世代同居（親と子）
4. 三世代以上同居（親と子と孫など）		5. その他

問3 あなたの仕事にあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 農業	2. 林業	3. 漁業	4. 自営業	5. 会社員	6. 公務員・団体職員
7. パート・アルバイト	8. 専業主婦（夫）	9. 中学生	10. 高校生・高専生		
11. 大学生・短大生・専門学校生	12. その他（ ）			13. 無職	

※仕事されている方は、以下もお答えください。

問3-2 休日はいつですか。（祝日を除く）

1. 土曜（毎週）と日曜	2. 土曜（隔週）と日曜	3. 日曜のみ	4. 平日	5. 不定期	6. その他（ ）
--------------	--------------	---------	-------	--------	-----------

問4 日常の主な交通手段は？あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 自動車（自分で運転）	2. 自動車（送迎してもらう）	3. バイク（原付を含む）	4. バス
5. タクシー	6. のりあいタクシー	7. 自転車	8. 徒歩

問5 あなたは自動車運転免許を持っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 持っている	2. 返納した	3. 持ったことはない	4. その他（ ）
----------	---------	-------------	-----------

※免許を持っている方にお聞きします

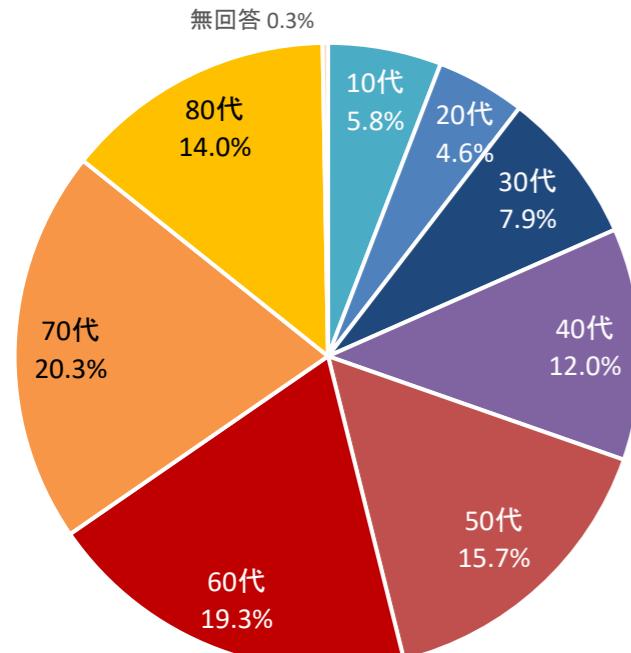
問5-2 自動車の運転に不安を感じることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 不安は感じない	2. 夜間や冬期など不安を感じることはある
3. 友人や知人など乗せることに不安を感じる	4. その他（ ）

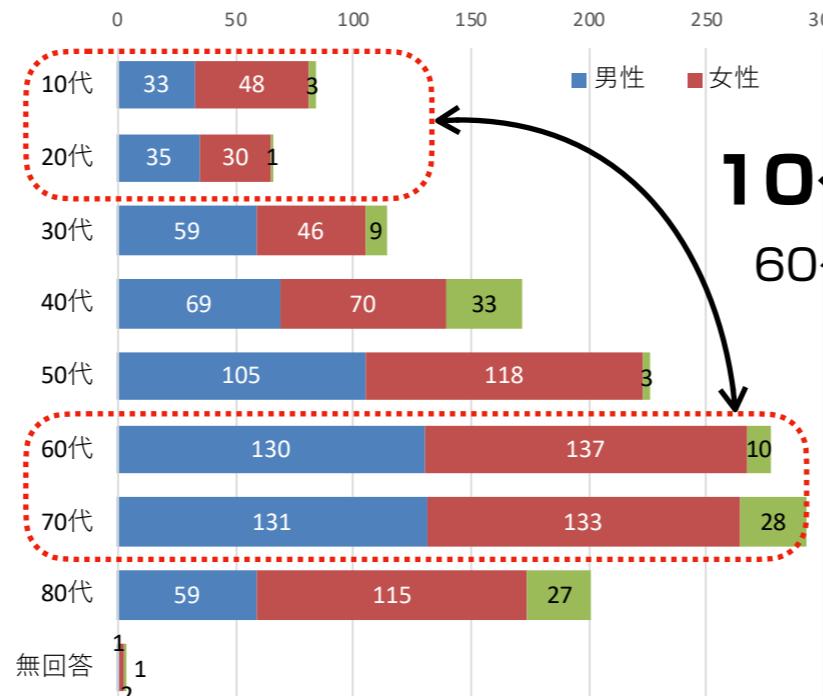
# 回答者属性

村上市・砂山地域 (2023)

## 回答者属性 (年代別)



## 回答者属性 (年代別×男女別)

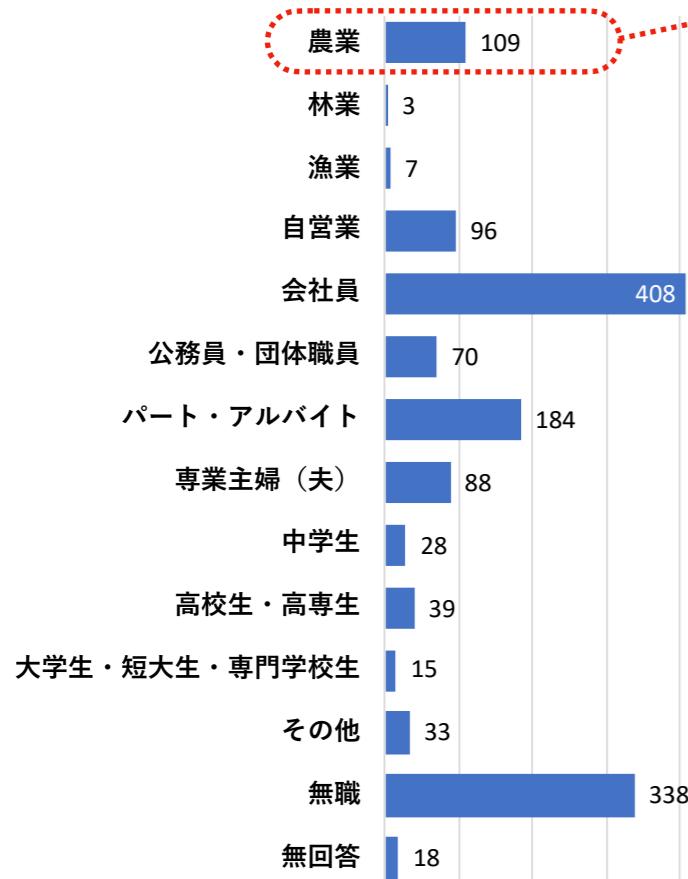


10~20代は  
60~70代の約1/4

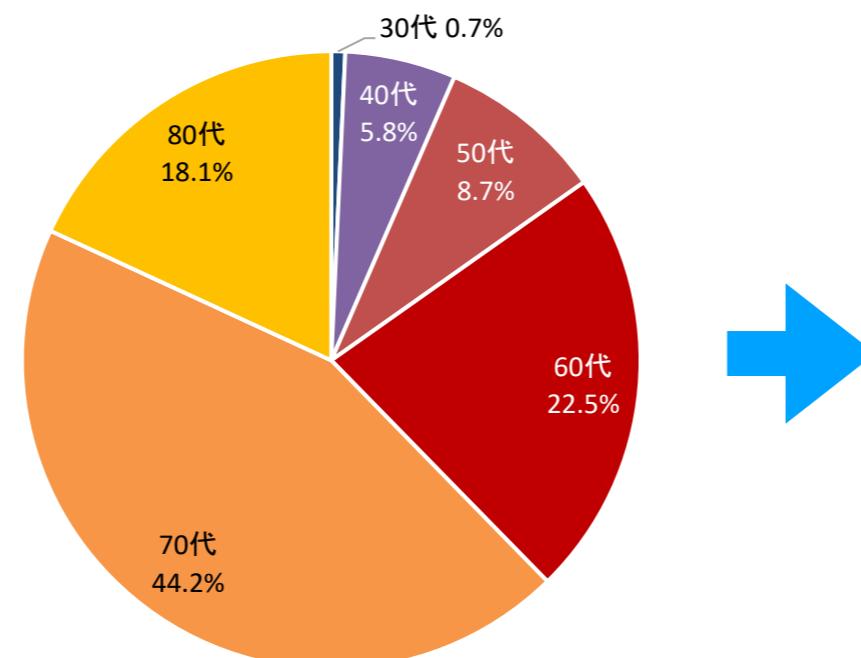
若者世代は少数派。  
人数では年齢層が完全に多数派。

そのため、アンケート結果は、数を比較するのではなく、**年代別の回答割合**を比較し、**世代間の意識の違い**を浮かびあがらせています。

## 回答者属性 (職業)



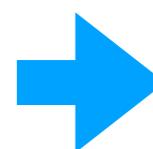
## 農作業従事者の年代構成 (割合) ※専業109人+兼業29人=138人



農作業従事者の84.8%が60代以上

## 農作業従事者の年代構成

年代	人数
10代	0
20代	0
30代	1
40代	8
50代	12
60代	31
70代	61
80代	25
計	138



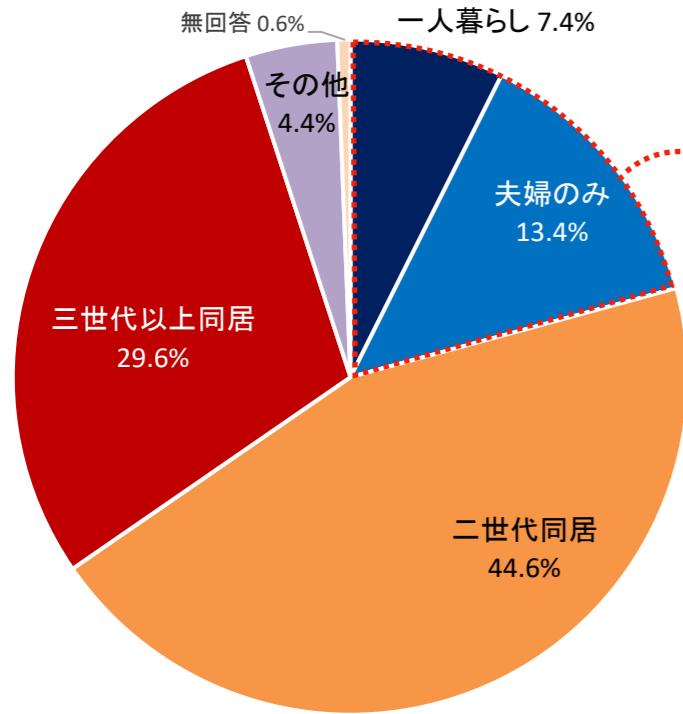
農地の維持管理は  
将来どうなる？

20年後は50人程度!?

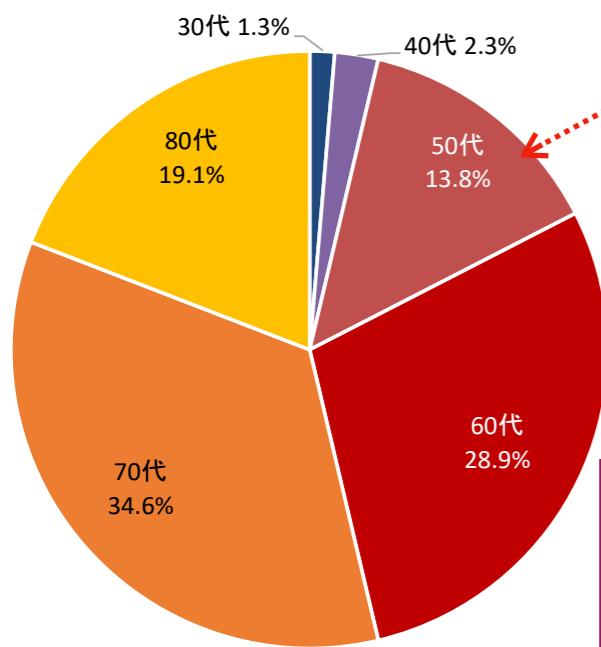
# 回答者属性（家族構成）

村上市・砂山地域（2023）

## 回答者属性（世帯構成）



72.4%が親子世帯



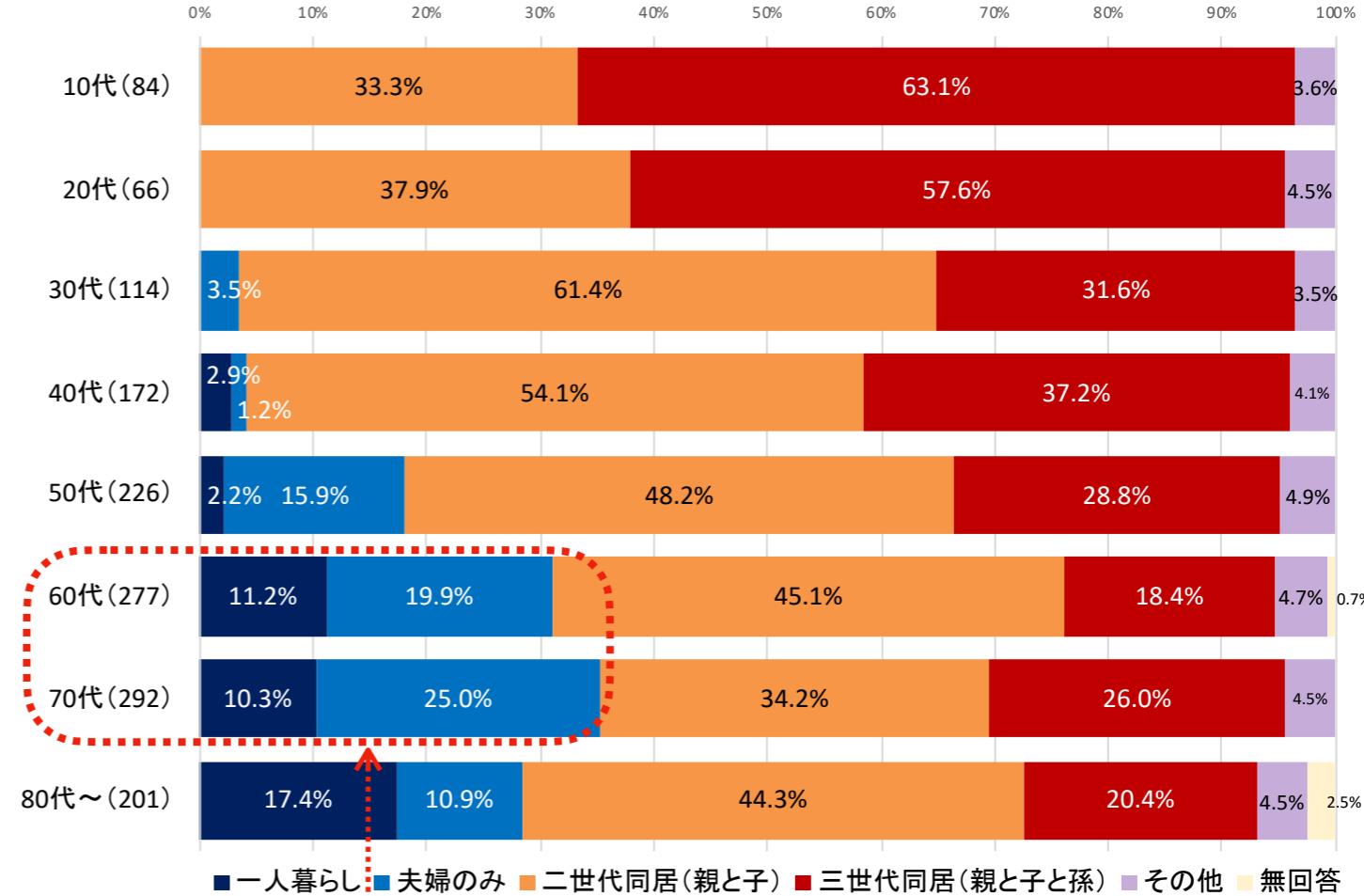
単身及び夫婦のみ世帯の  
82.6%が60代以上

単身+夫婦のみ世帯は  
大半が高齢世帯！

単身+夫婦のみ世帯の年代構成

※括弧内の数値は回答者数

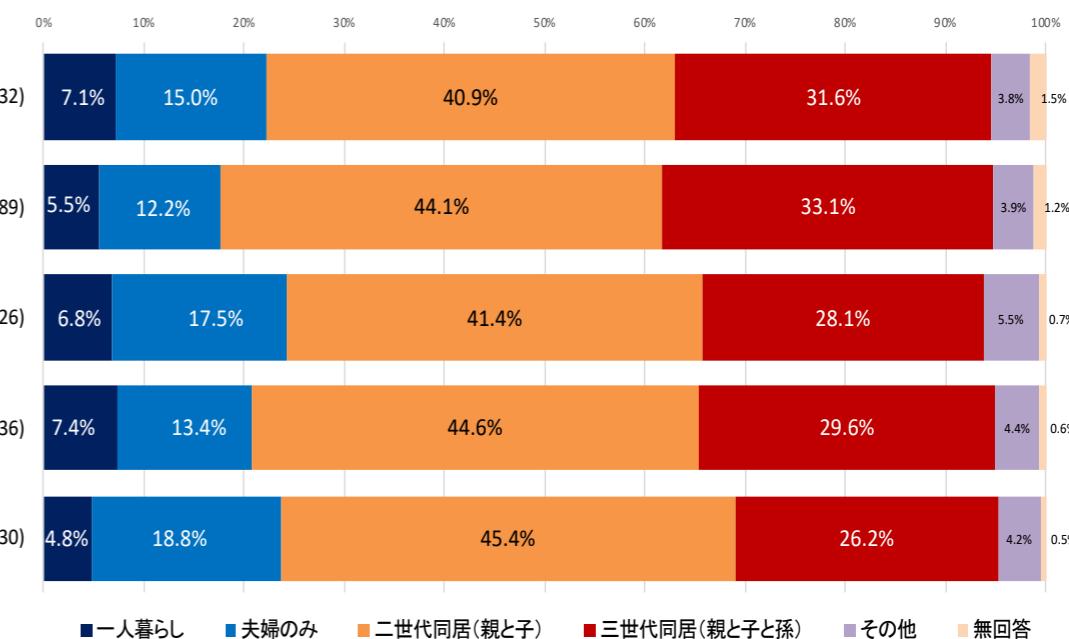
## 年代別の家族構成



60～70代の1/3は単身もしくは夫婦のみ世帯

※括弧内の数値は回答者数

## 地域別の家族構成



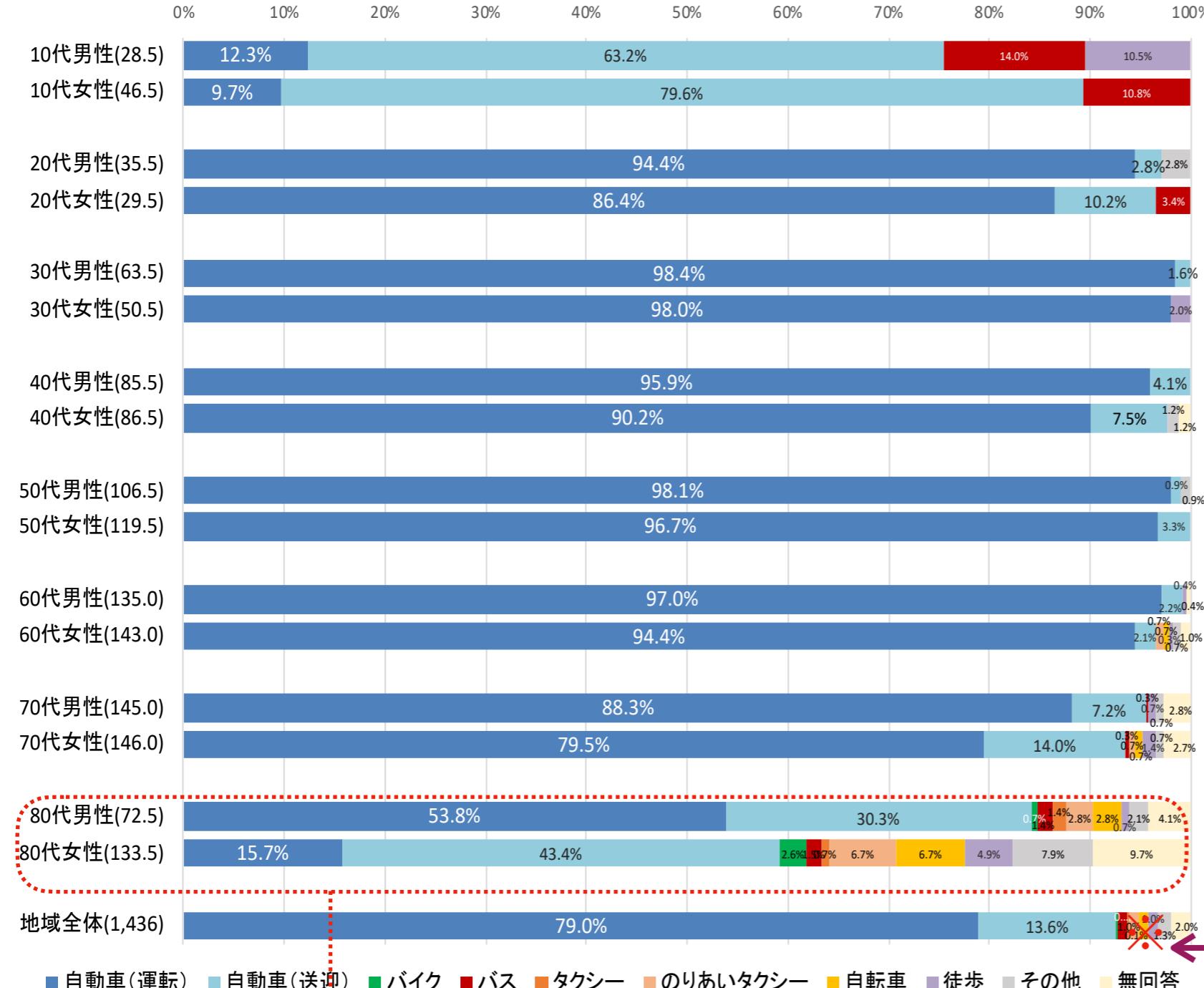
※砂山地域は親子世帯の割合が地区内でも高い

# 年代別・男女別の日常的な交通手段

村上市・砂山地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算) ) / 主な交通手段1つを抽出して集計

## 移動手段は自動車 (自ら運転) が大半



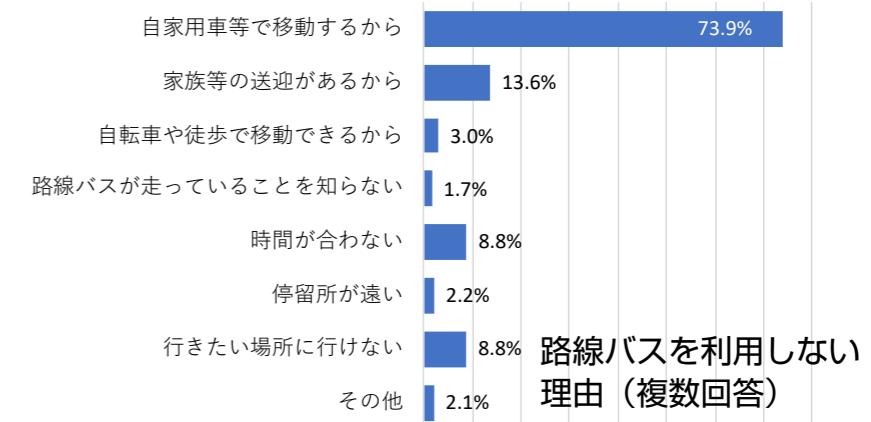
80代になると自動車 (自ら運転) の割合が低下  
女性は半数近くが「車での送迎」が主な移動手段に

高齢になると親族等による自動車での送迎が  
主な交通手段となっている。

公共交通は交通手段としてはほとんど挙がっていない

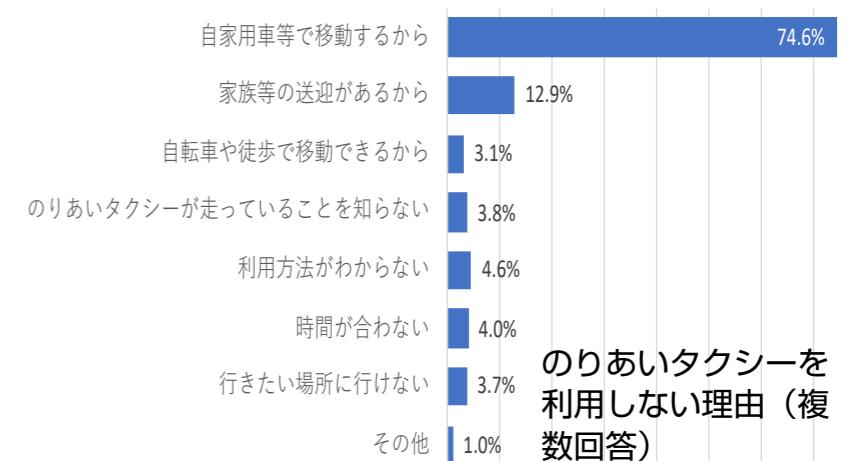
## 月数回以上、路線バスを利用する

8人 / 1,436人 (全体の0.6%)  
(年数回以上は16人 (全体の1.1%) )



## 月数回以上、のりあいタクシーを利用する

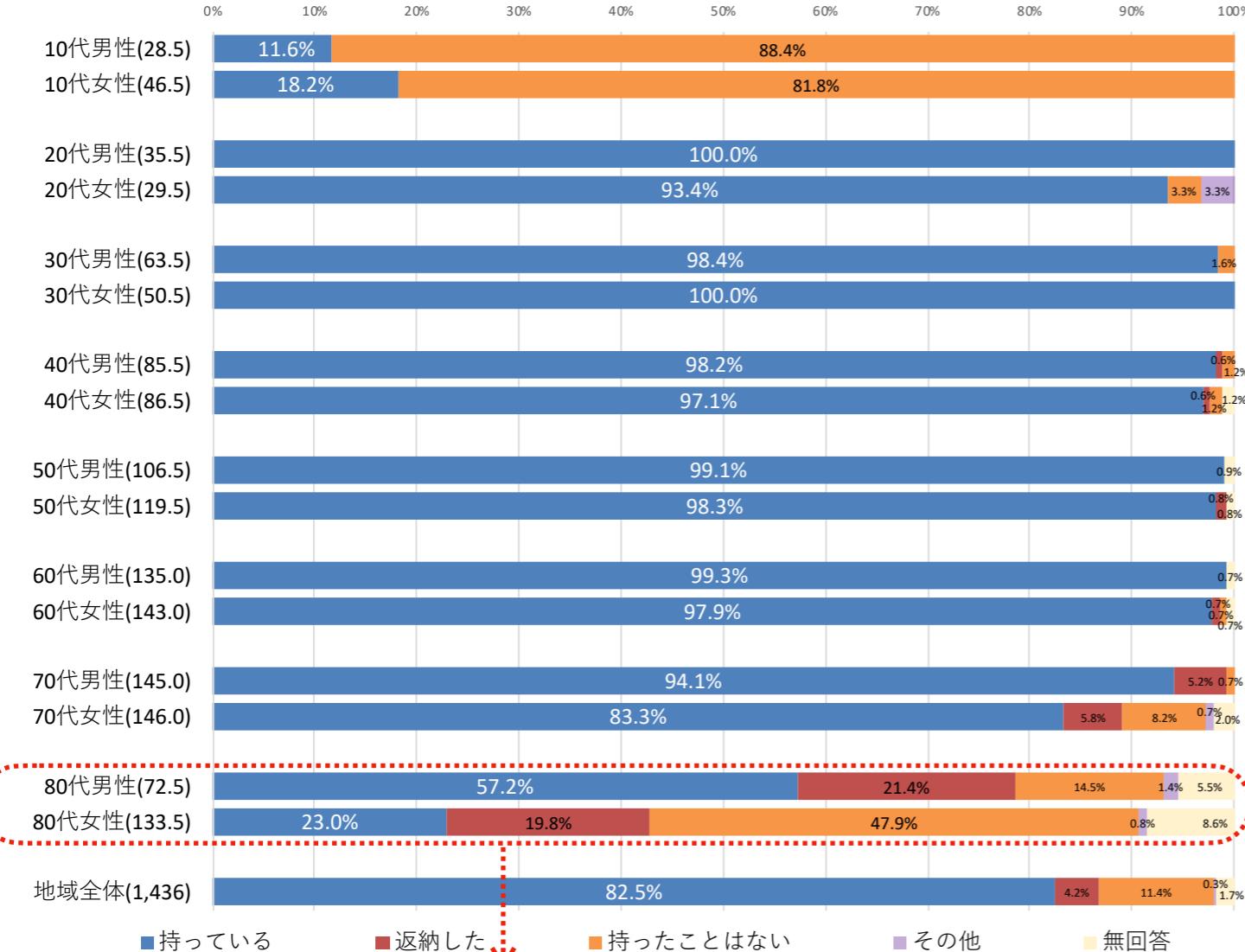
18人 / 1,436人 (全体の1.2%)  
(年数回以上は28人 (全体の1.9%) )



# 自動車運転免許保有状況

村上市・砂山地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算) )



80代になると免許なし（返納含む）の割合が増加

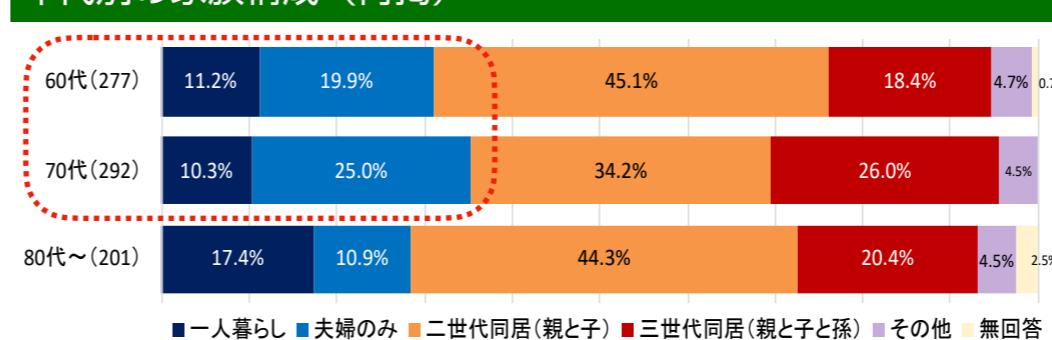
※80代女性は、免許返納が2割+もともと持っていないが半数近く

注意！

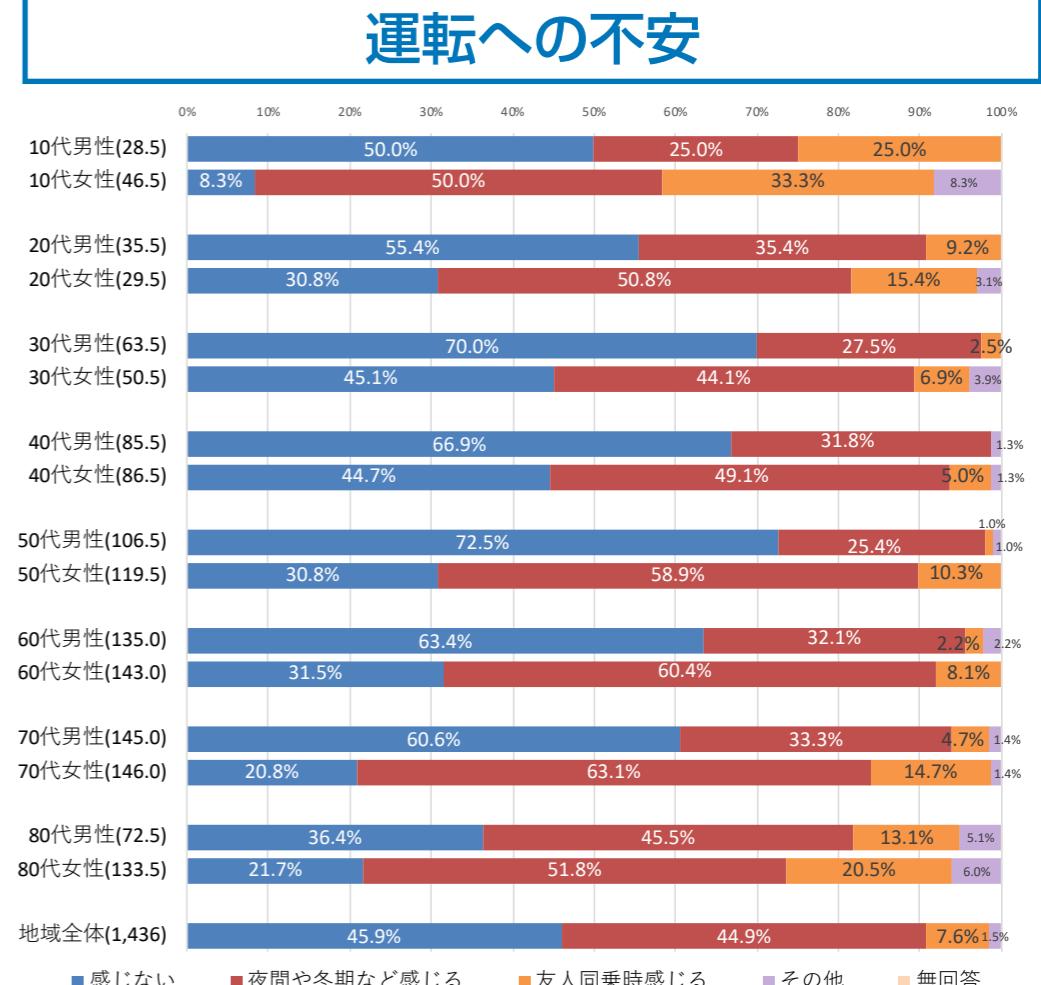
（今まで）  
80代になり自分で  
車の運転ができなく  
なっても、**親族等に**  
**よる車での送迎**で移  
動手段は確保されて  
きた。

（これから）  
今の**70代以下**は、**独  
居・夫婦のみ世帯**が多  
い。親族等による車で  
の送迎を、今までと同  
じようにあてにできる  
か？

## 年代別の家族構成（再掲）



ほとんど使わ  
てはいないが、  
だからといって  
公共交通はこの  
まで本当によ  
いのか？！



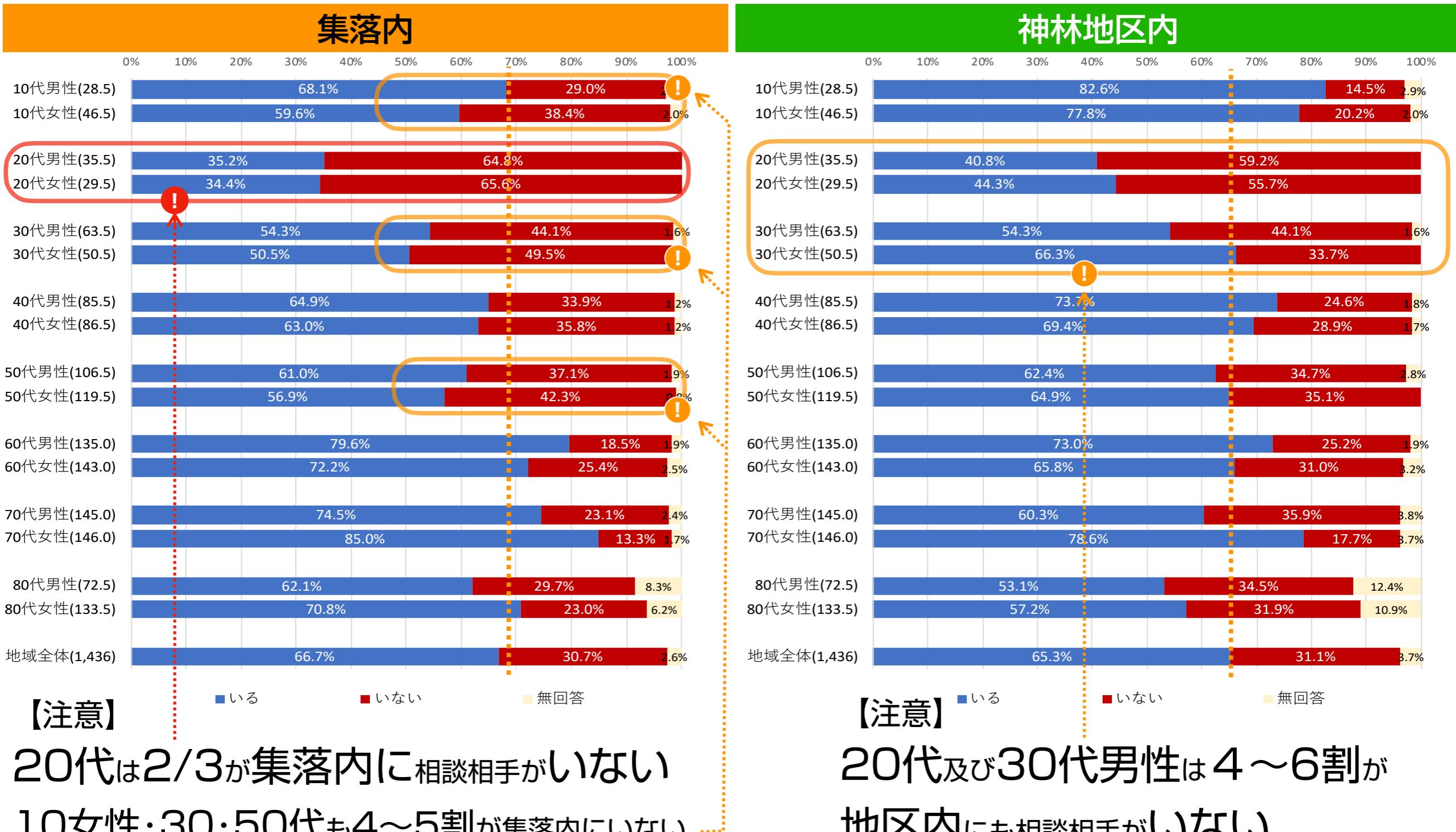
男性に比べ、女性は運転に不安を感じている割合が高い。（特に夜間や冬期）

# 家族以外の相談相手の有無

村上市・砂山地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))

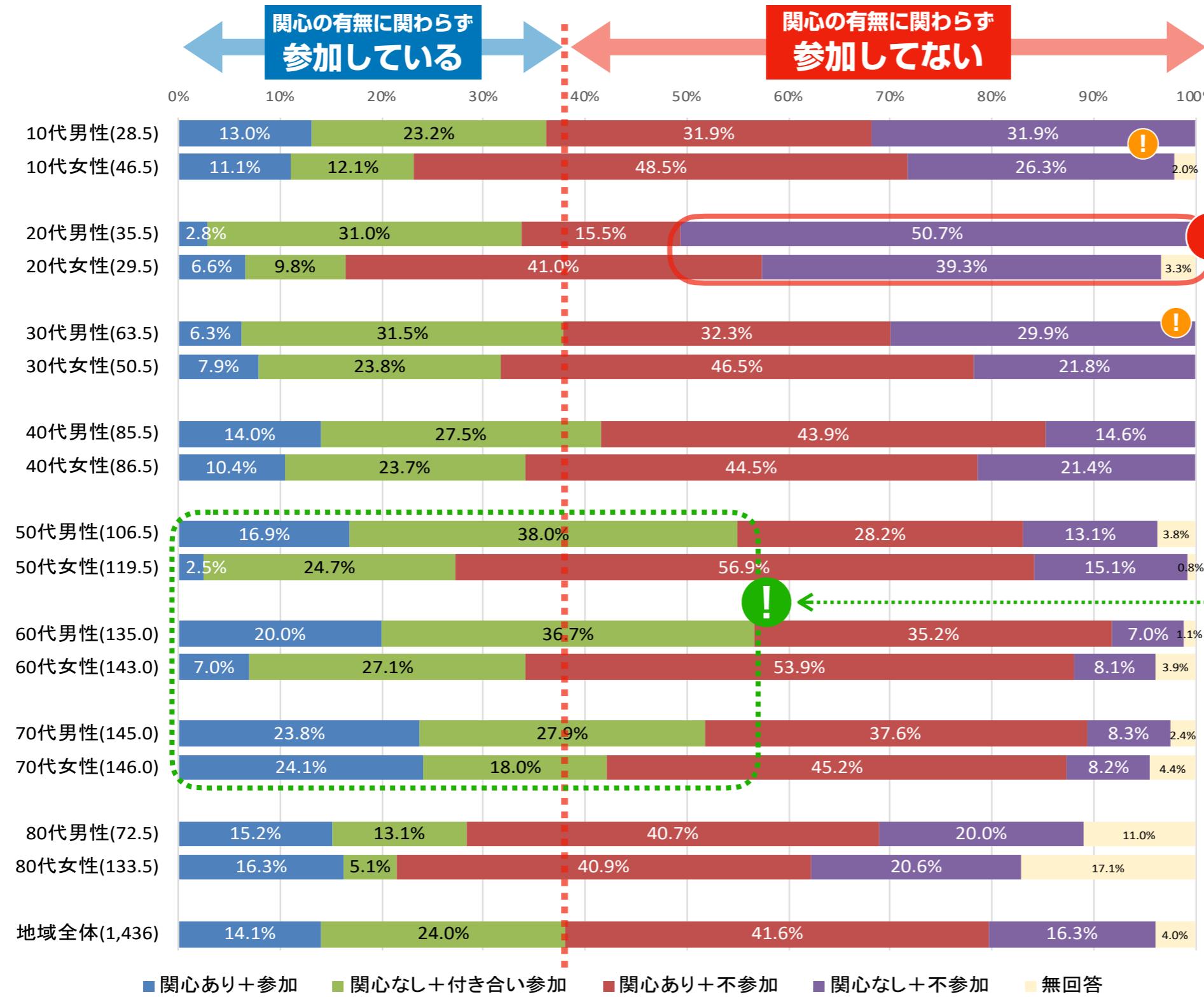
## 集落内・地区内共に約2/3が相談相手がいると回答



# 地域活動への関心

村上市・砂山地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



4割近くが関心の有無に関わらず地域活動に参加している  
女性は「関心があっても参加していない」割合が男性に比べて高い。

【注意！】  
関心なし+不参加が  
20代は4～5割  
10・30代男性も3割前後

50～70代男性は  
半数以上が参加している  
30・40代男性も4割前後が参加

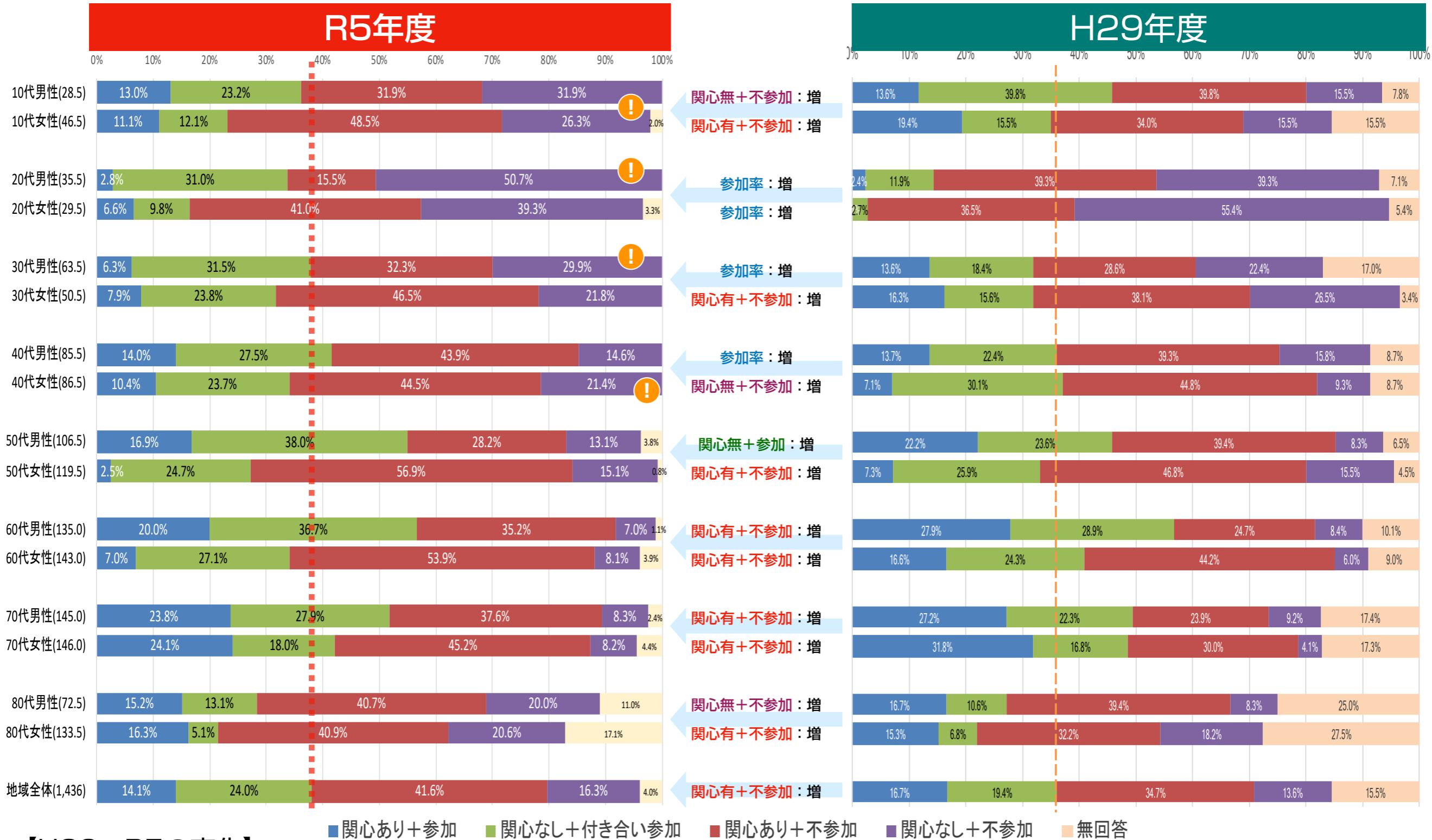
関心あり+不参加は  
どの年代でも  
3~5割いる

## 参加の機会・方法の さらなる多様化を！

# 地域活動への関心 (H29結果との比較)

村上市・砂山地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算) )



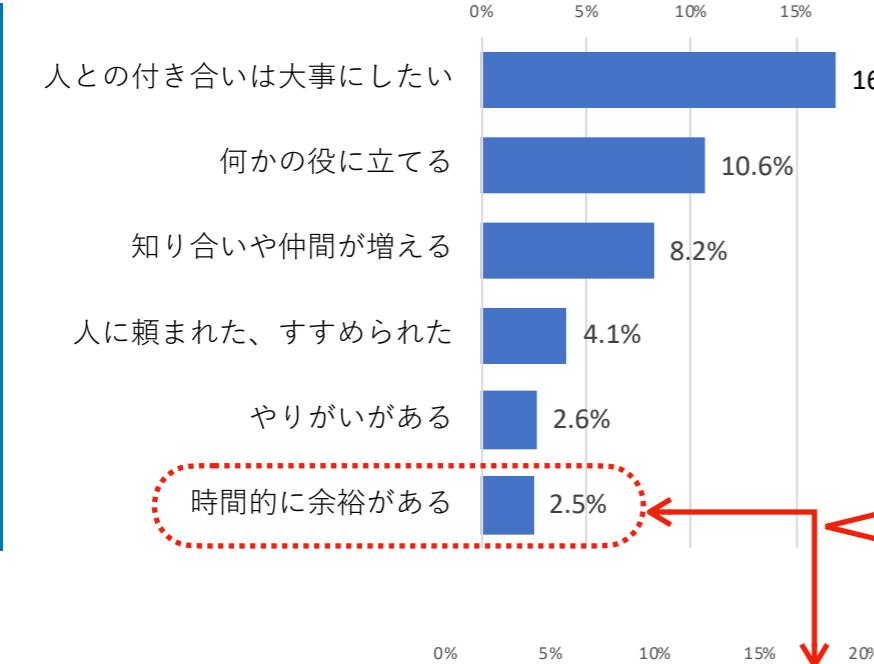
(H29→R5の変化)

- 参加率（「関心あり+参加」および「関心なし+付き合い参加」を合算した割合）は微増
- 「関心なし+不参加」の割合が10代、20・30代男性、40代女性で増加

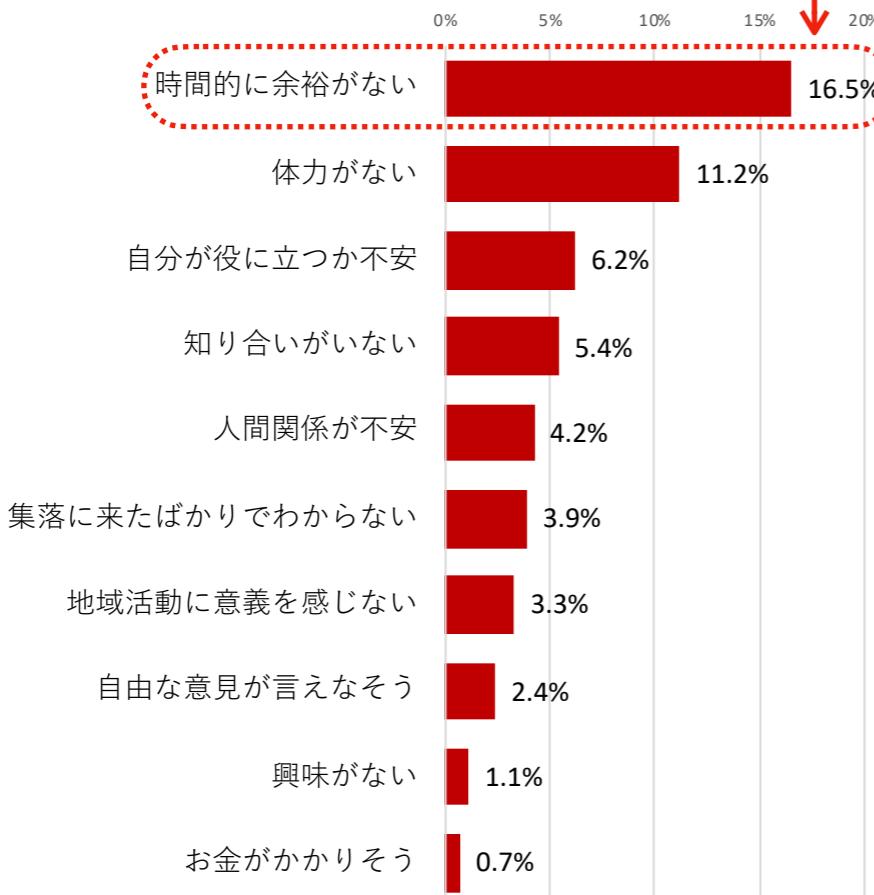
# 地域活動への関心 (回答理由)

※回答総数に対しての回答割合 (割合が高いほど、多くの人が○を付けている) で集計。回答割合が高かった順番でグラフを作成。

関心の有無に関わらず  
参加している人の理由

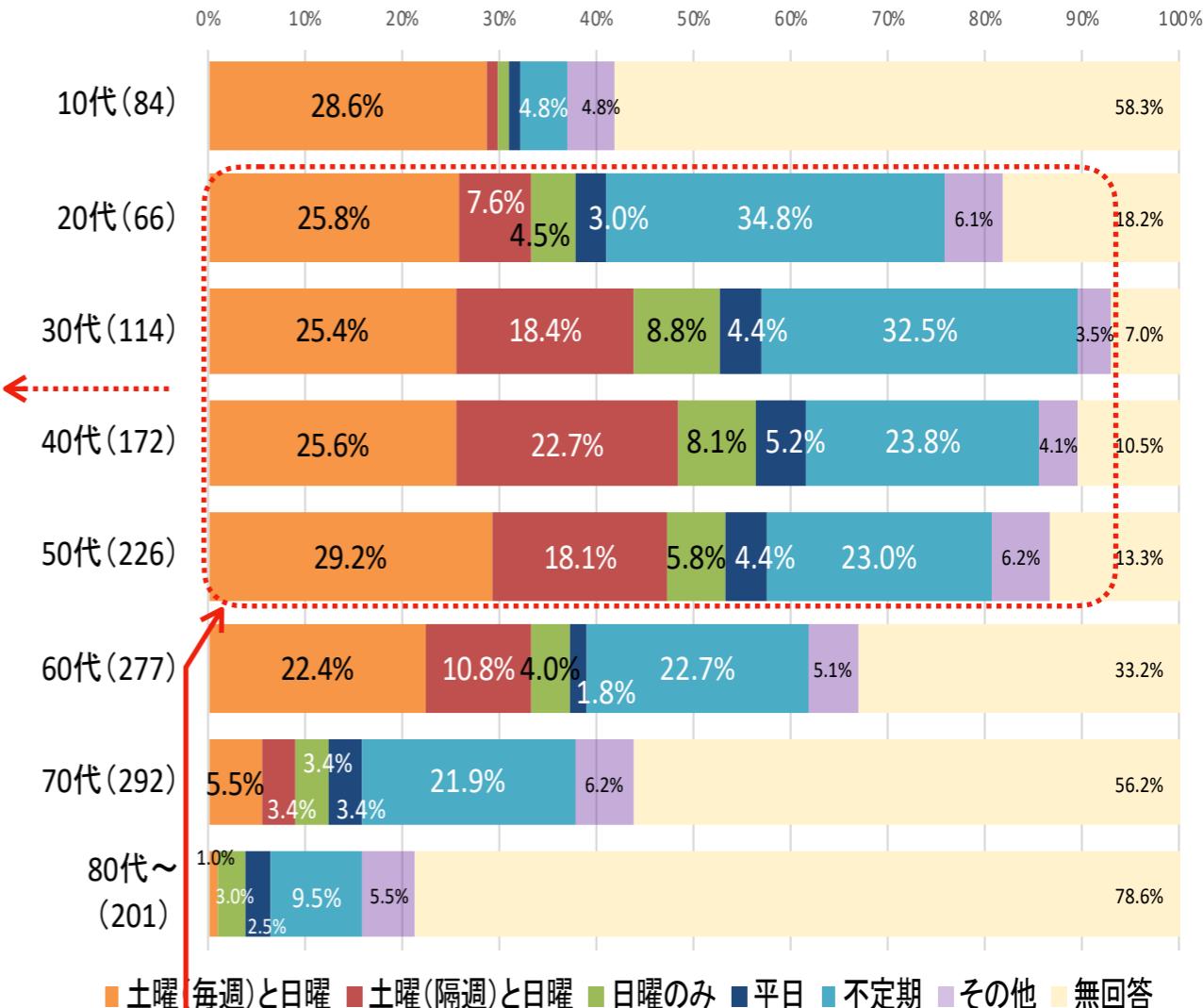


関心の有無に関わらず  
参加していない人の理由



# 休日はいつか?

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))



20～50代は必ずしも土日は休みではない

土曜日が毎週休み 2割半  
日曜日が毎週休み 5割強

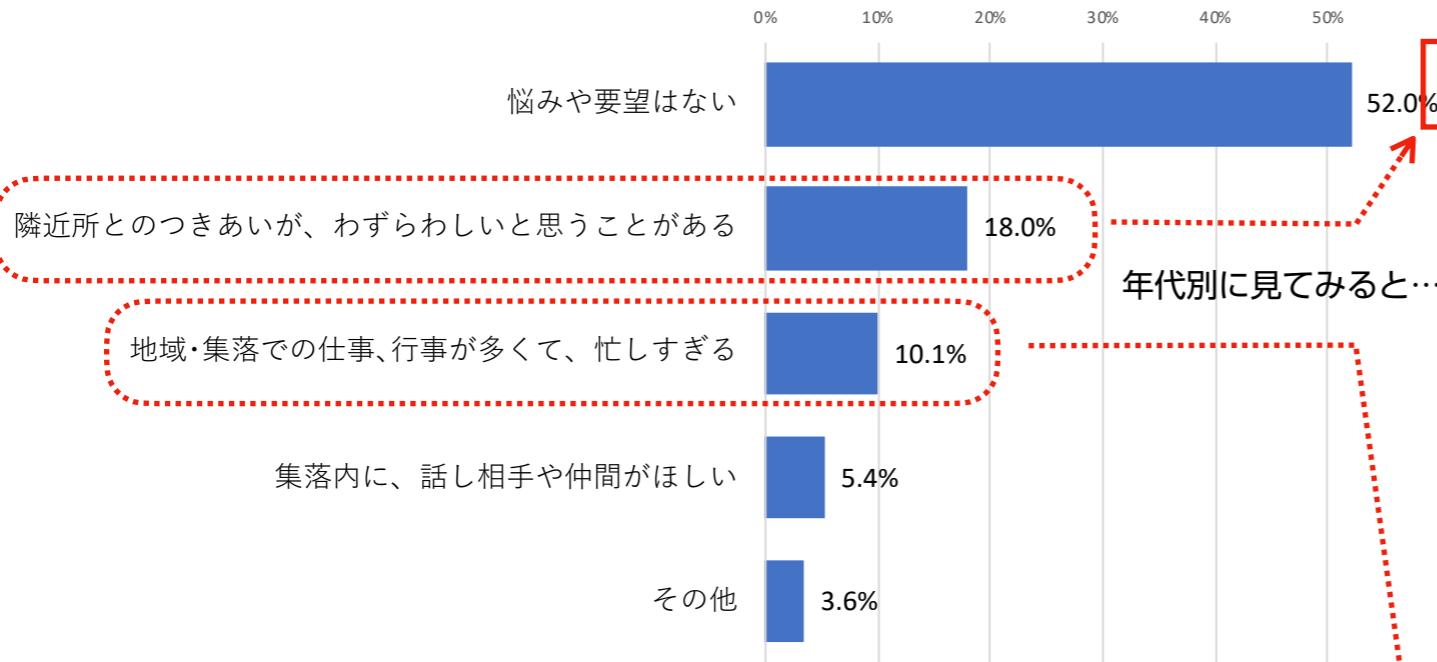
20代は日曜が毎週休みな  
のは4割以下

この世代の参加を求めるのであれば  
曜日設定の配慮が不可欠！

# 近所づきあいでの悩み

村上市・砂山地域 (2023)

※回答総数に対しての回答割合（割合が高いほど、多くの人が○を付けている）で集計。回答割合が高かった順番でグラフを作成。

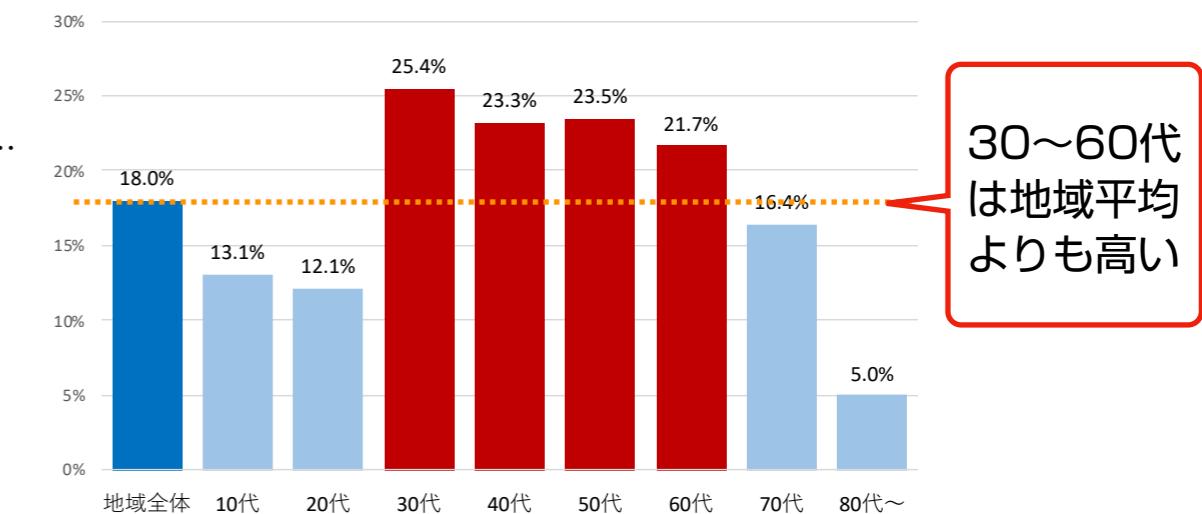


地域全体では半数以上が「悩みなし」

人口減少がさらに進展する将来を見据え、地域の営みを持続可能なものとするためには、これまでのやり方・活動内容を見直し、負担の軽減を図っていくことが不可避！

隣近所とのつきあいが、わずらわしいと思うことがある

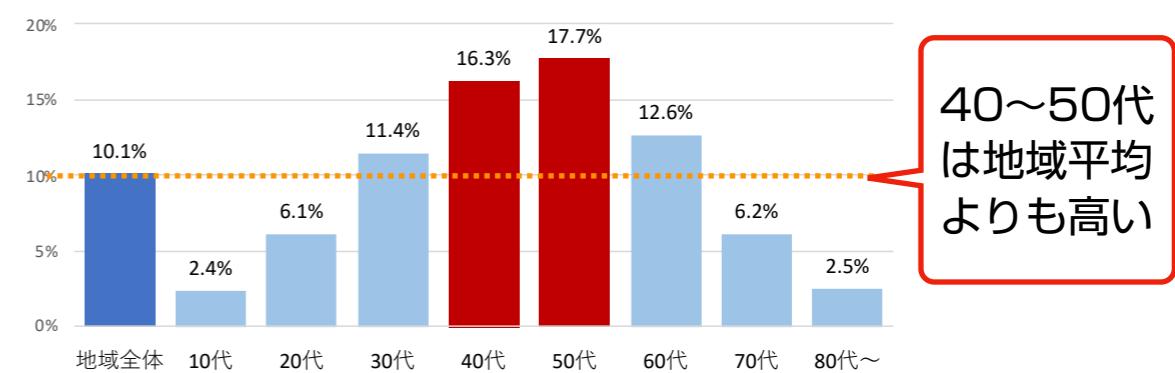
年代別に見てみると…



30～60代は地域平均よりも高い

昔ながらの近所づきあいのやり方が、中堅世代の価値観に合わない部分が出てきている!?

地域・集落での仕事、行事が多くて、忙しすぎる

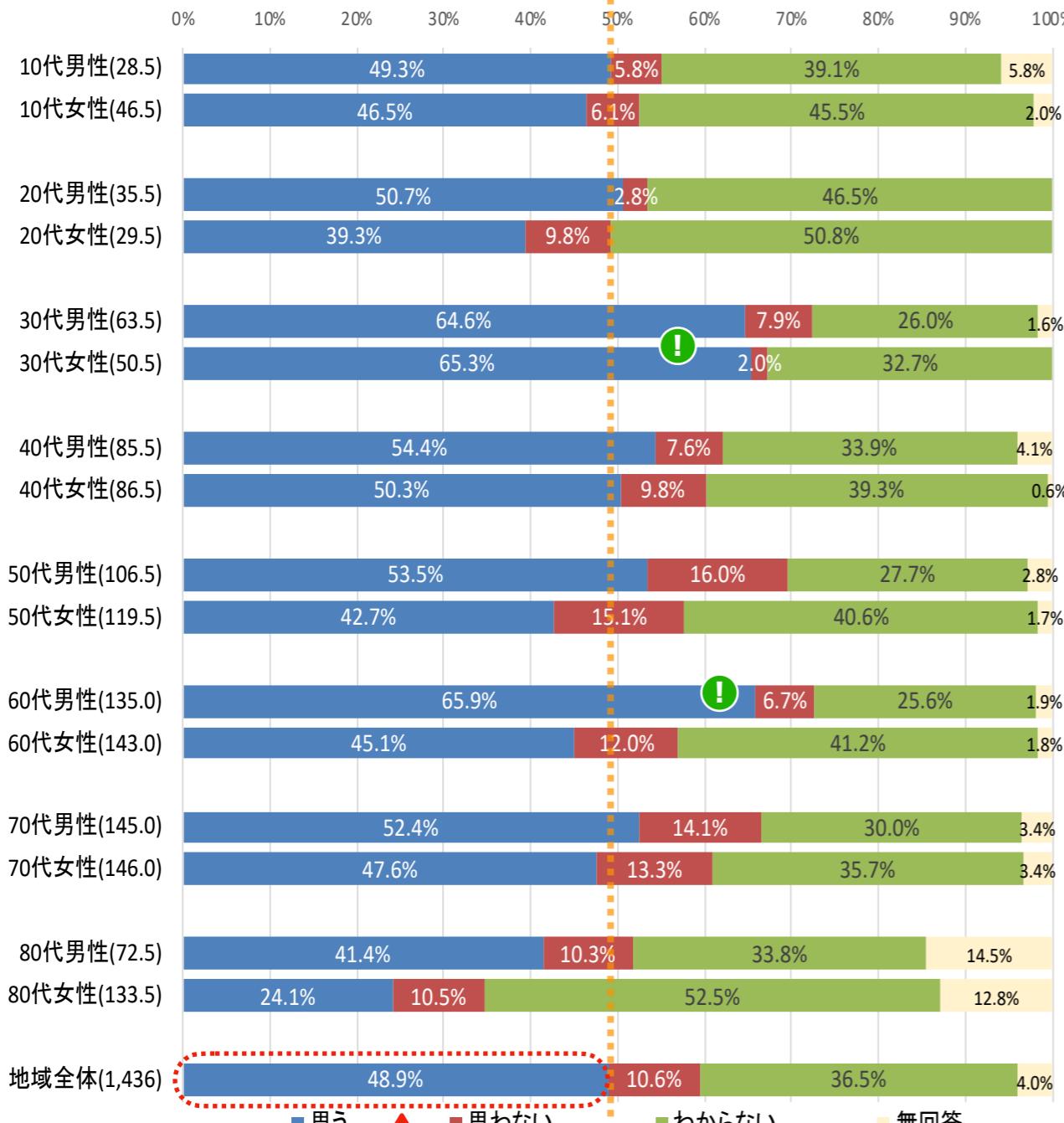


40～50代は地域平均よりも高い

地域活動に参加している割合が高い世代が、多忙さ・負担の大きさを、より強く感じている。

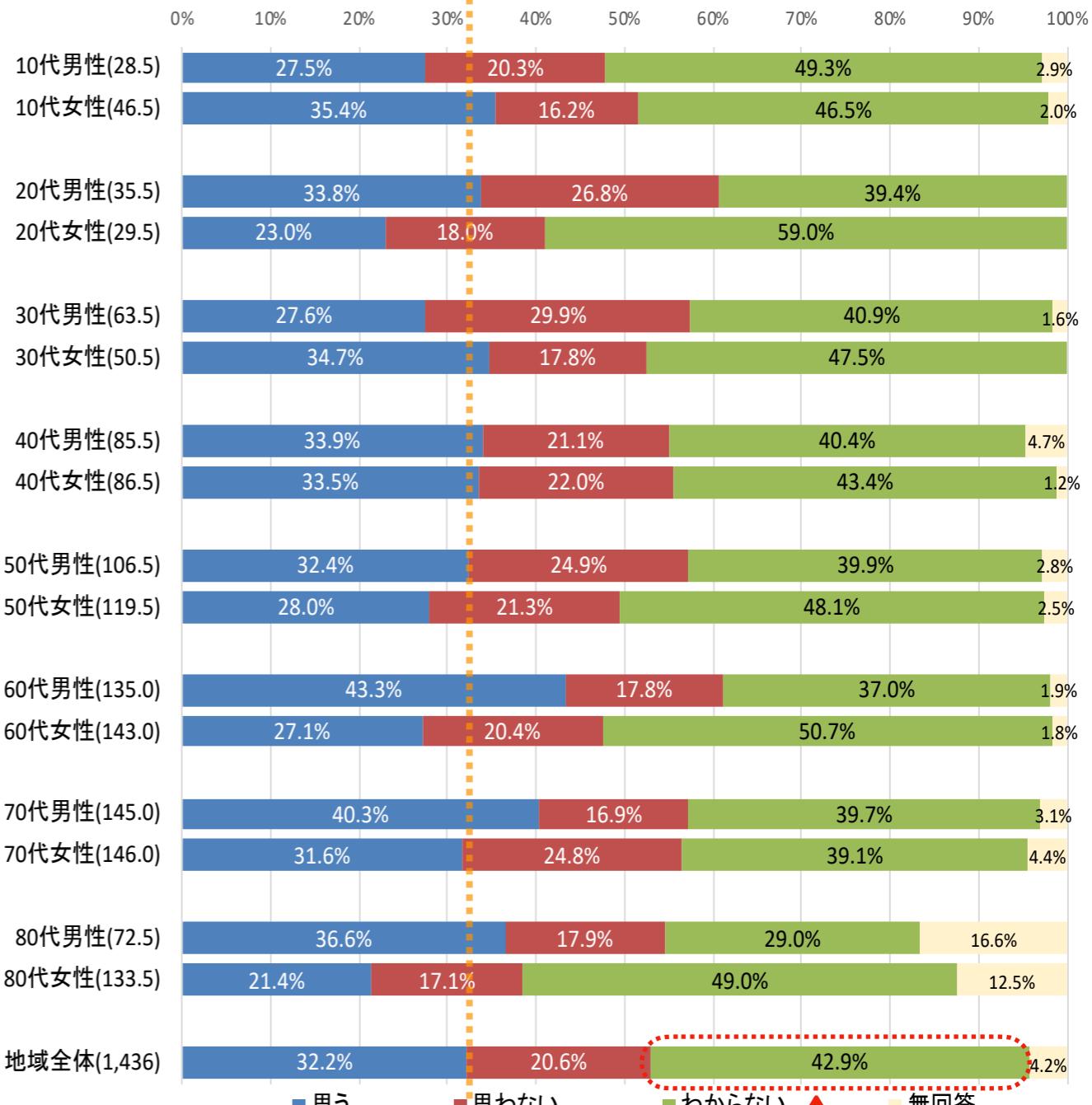
# 定住受入の必要性

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算) )



地域全体では半数近くが「必要」  
30代及び60代男性は2/3が「必要」

# 他地域との交流の必要性

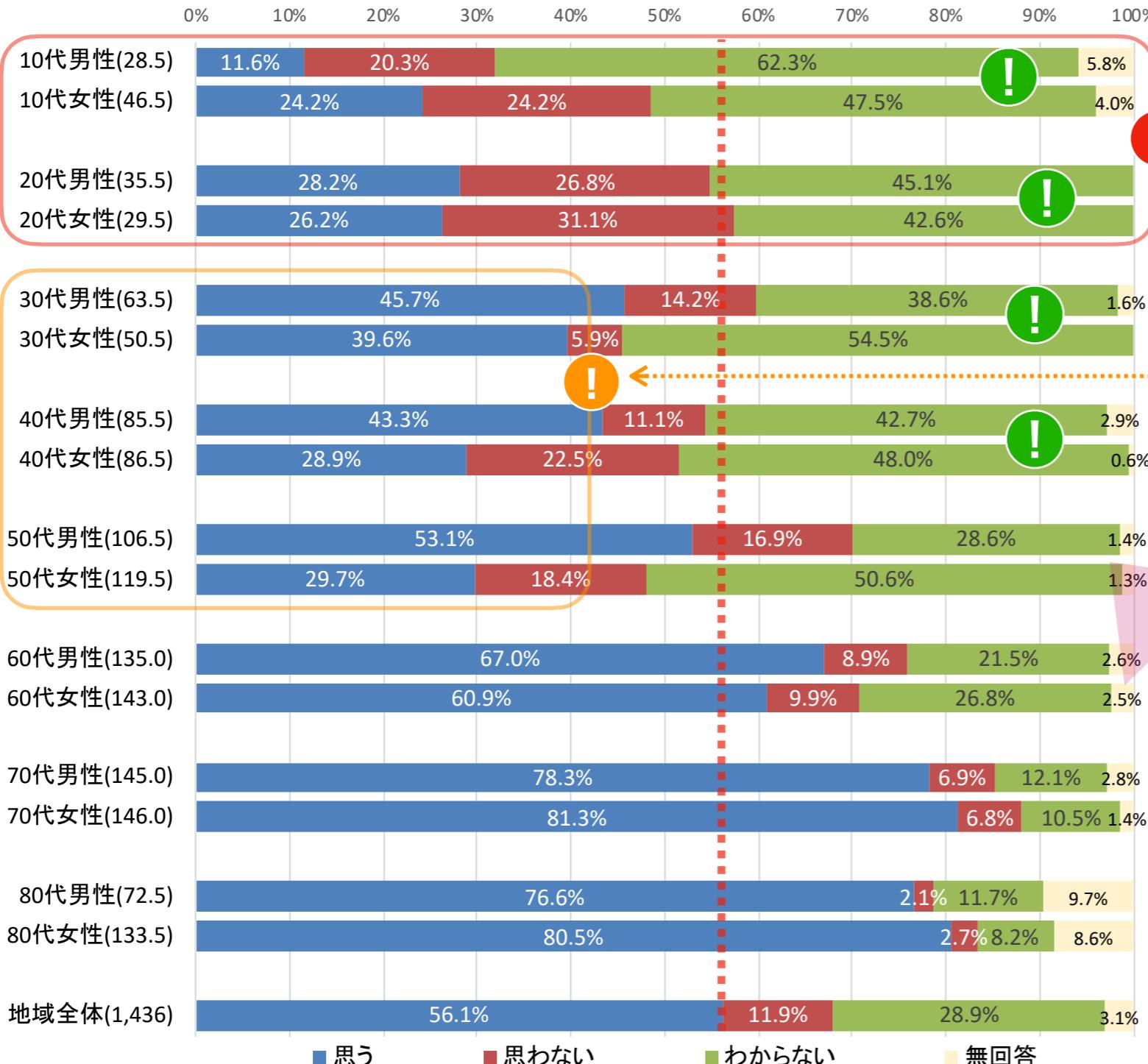


地域全体では4割以上が「わからない」  
年代・性別によって賛否がかなり分かれている

# この地域に住み続けたいと思うか？

村上市・砂山地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算) )



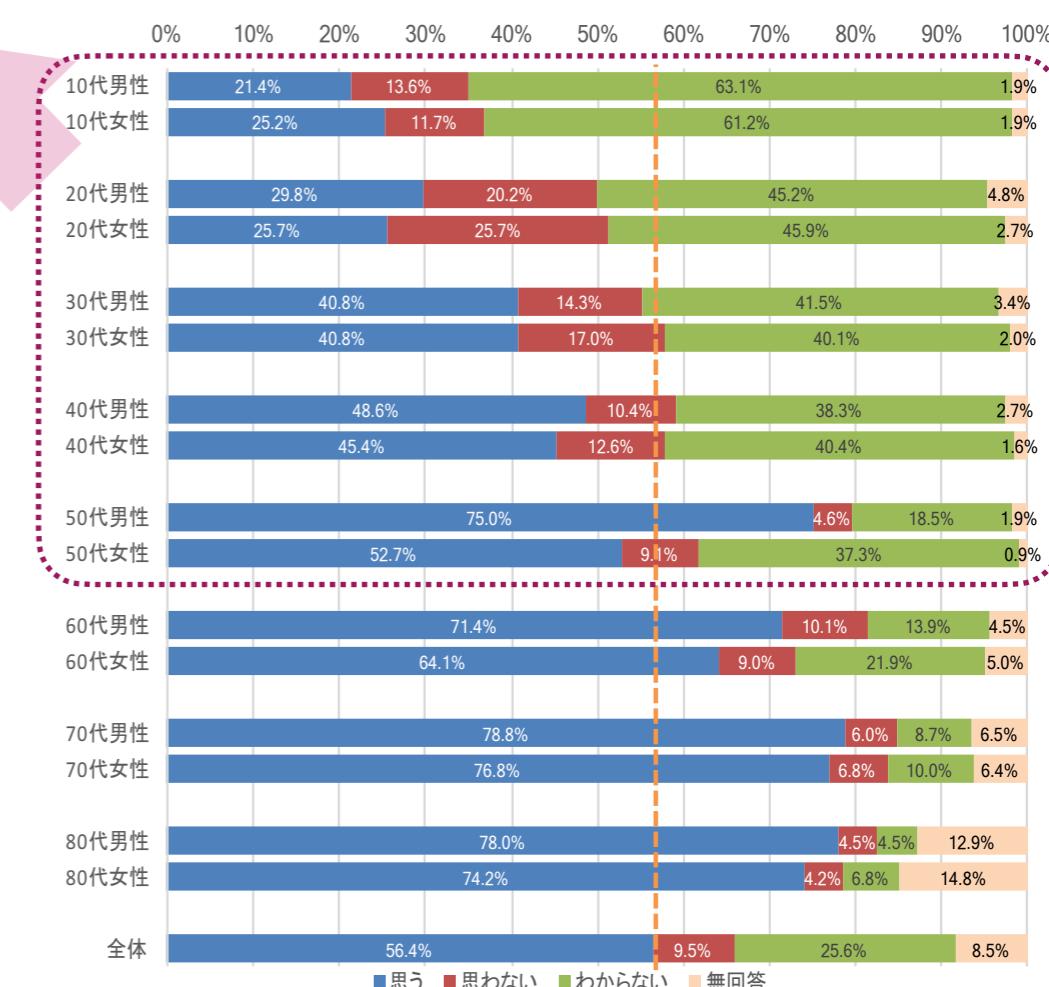
10・20代の定住意向は3割以下

※10代男性の定住意向は1割強！

30～50代の定住意向は4割前後

ただし「わからない」も4～6割  
(これからの取り組み次第)

## H29年度調査時の定住意向

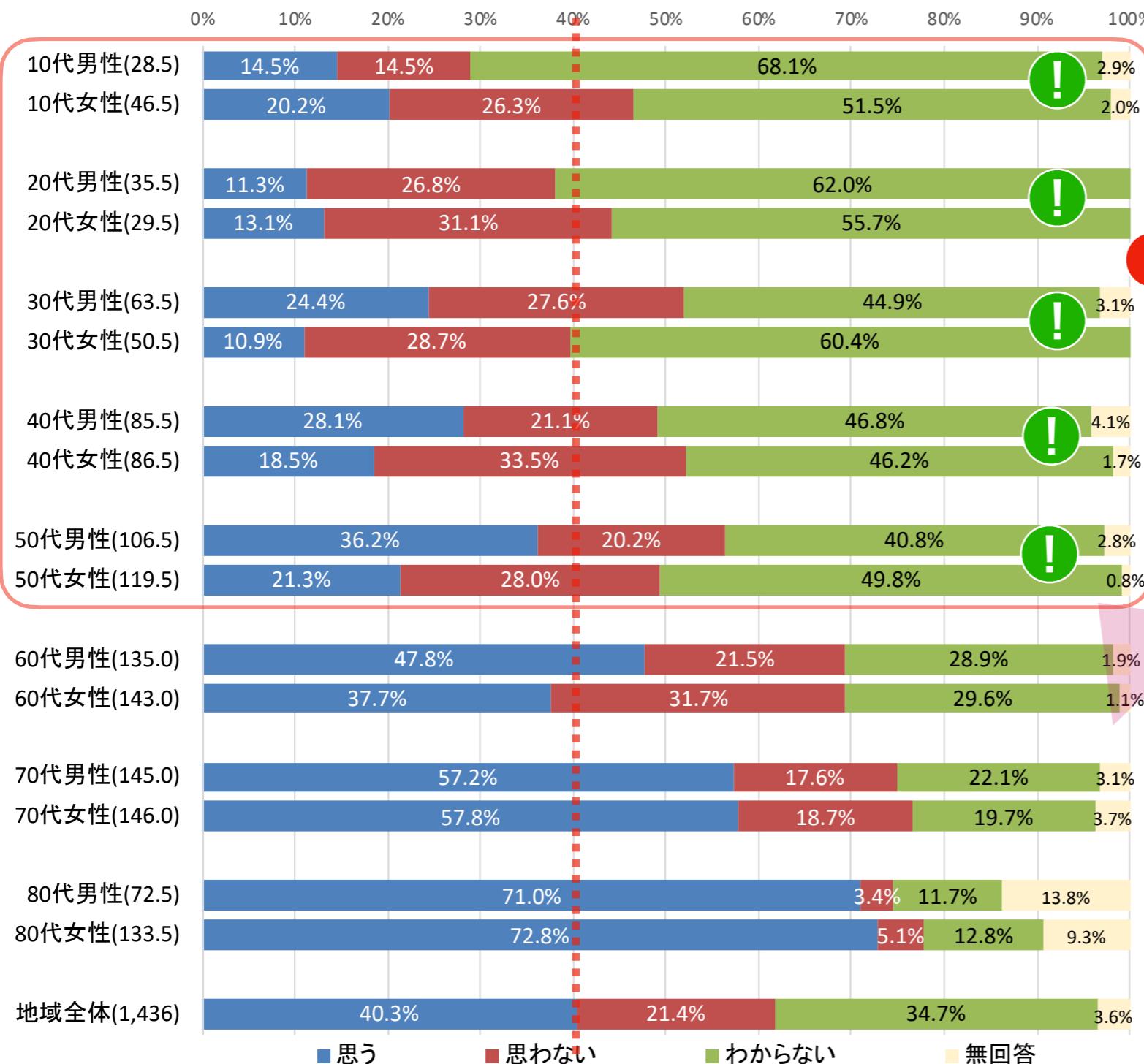


地域全体では「住み続けたいと思う」は半数以上

【注意！】前回調査 (H29) に比べ、地域全体ではほぼ横ばいだが、  
10代男性、40・50代女性の定住意向が大幅に低下。

# 自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？ 村上市・砂山地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算) )



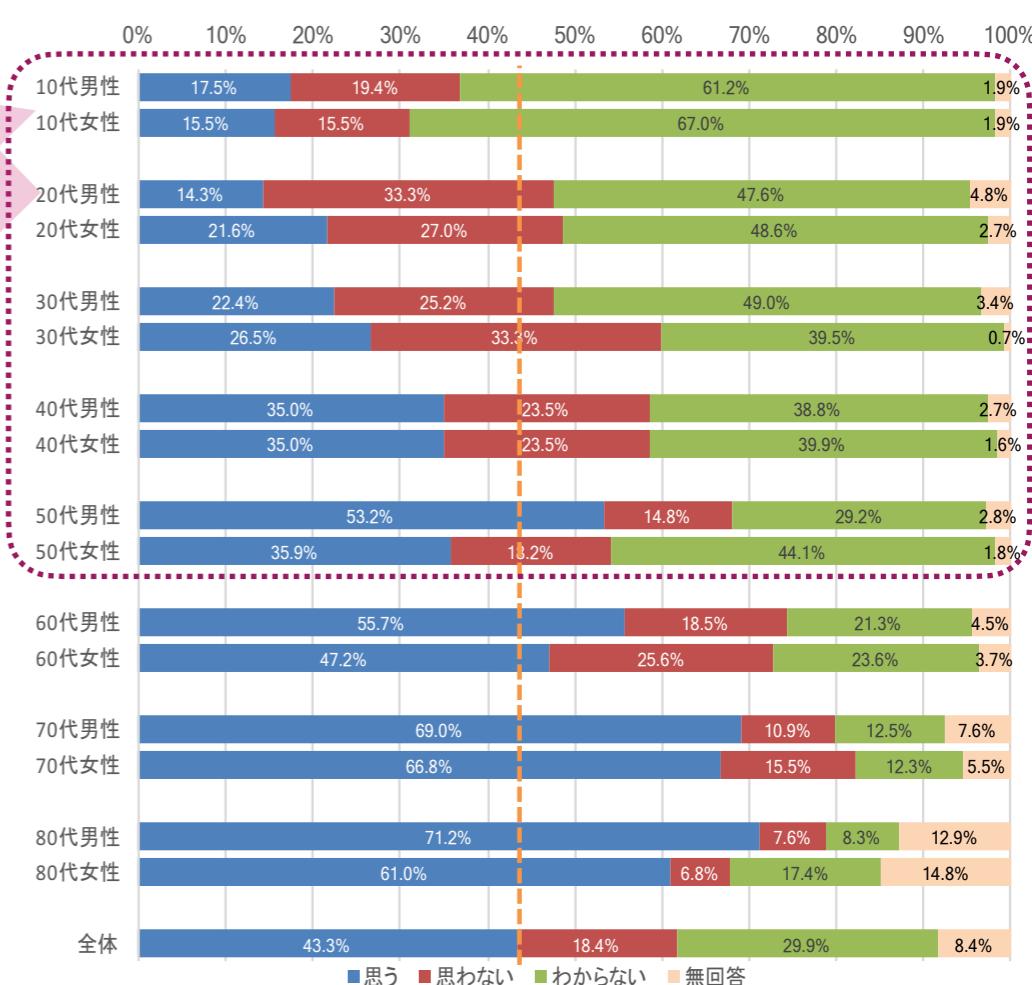
地域全体では「住み続けてほしい」が4割

【注意！】前回調査 (H29) に比べ、60代以下のほぼ大半で、子どもへの定住希望が低下。 (元々低かった30代以下はさらに低下)

10～30代及び40・50代女性は  
「住み続けてほしいとは思わない」の方  
が多い

ただし「わからない」が5～6割  
(これからの取り組み次第)

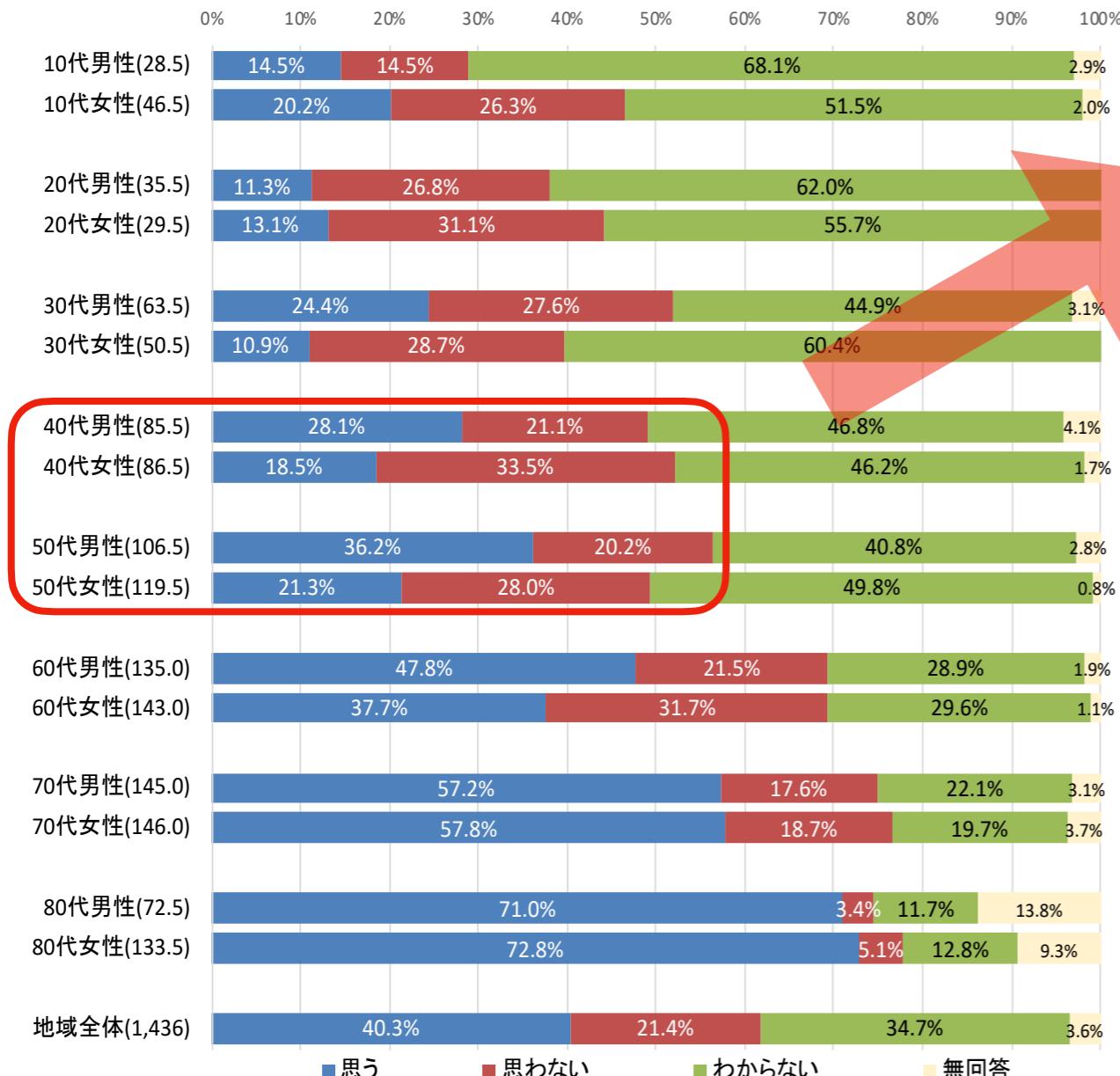
## H29年度調査時の子どもへの定住希望



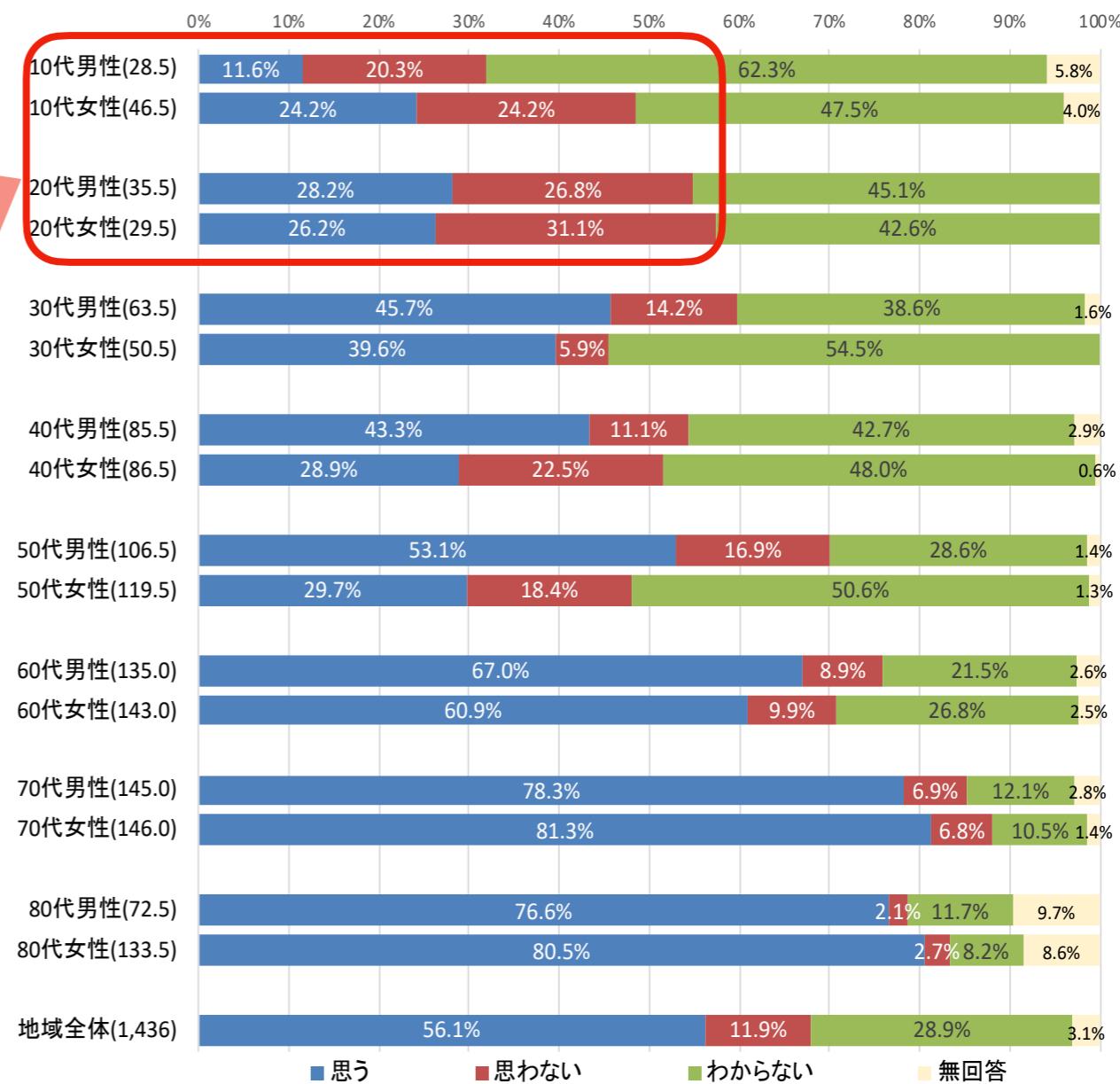
子育て中の親世代（40・50代）が「子どもに住み続けてほしいと思わない」の割合が高い

子ども世代（10～20代）の定住意向割合は地域全体の半分以下

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？



この地域に住み続けたいと思うか？

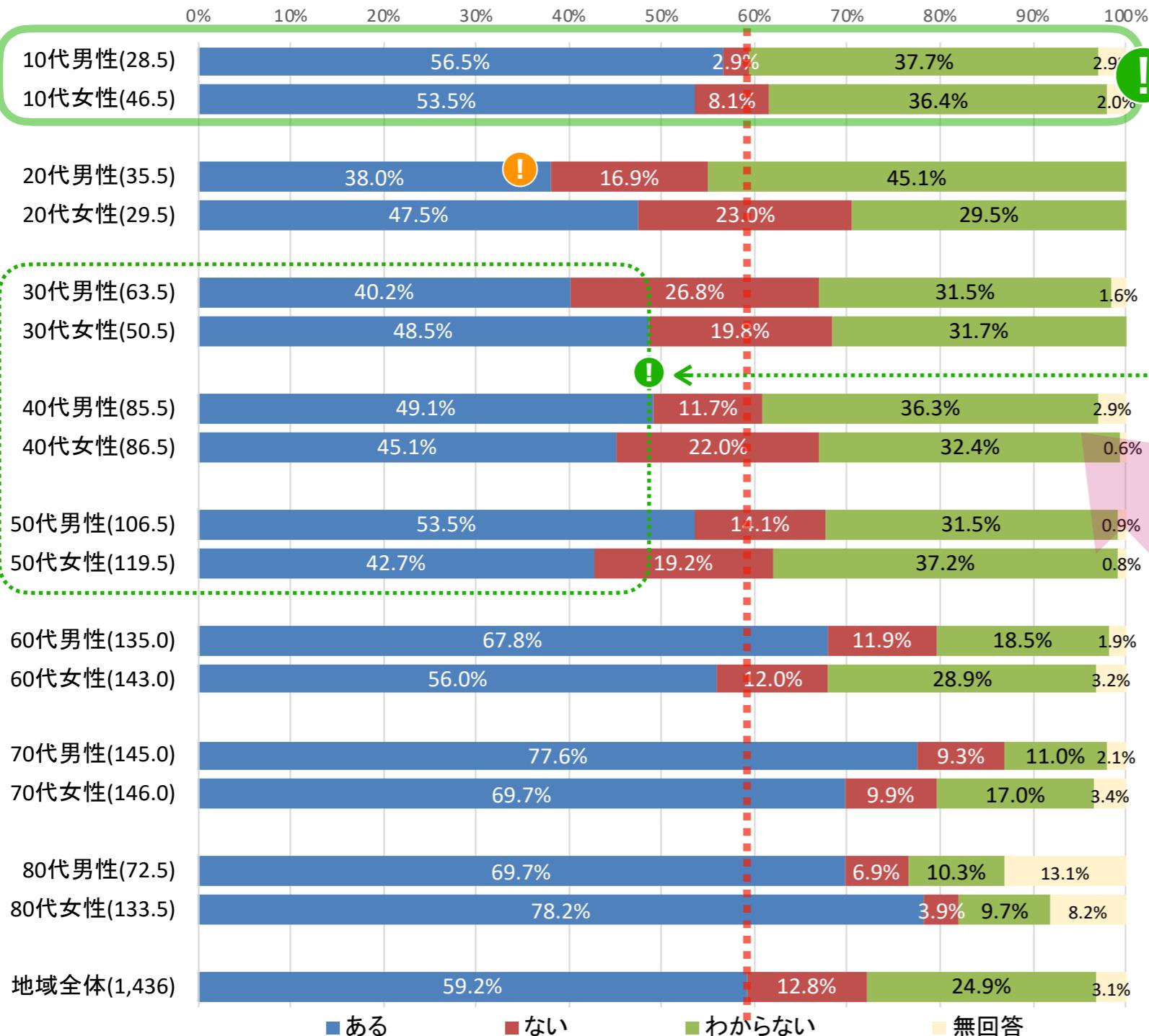


親世代の意向が、子ども世代の意向に影響していないか？！

# 地域への愛着の有無

村上市・砂山地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算) )



地域全体では「愛着がある」が6割

【注意！】地域全体では前回調査 (H29) よりも増加。若年層の愛着度は上昇している一方、40・50代は若干低下。

10代の愛着度は5割超と

地域全体から若干低い程度

※前回調査よりも1割ほど上昇している！

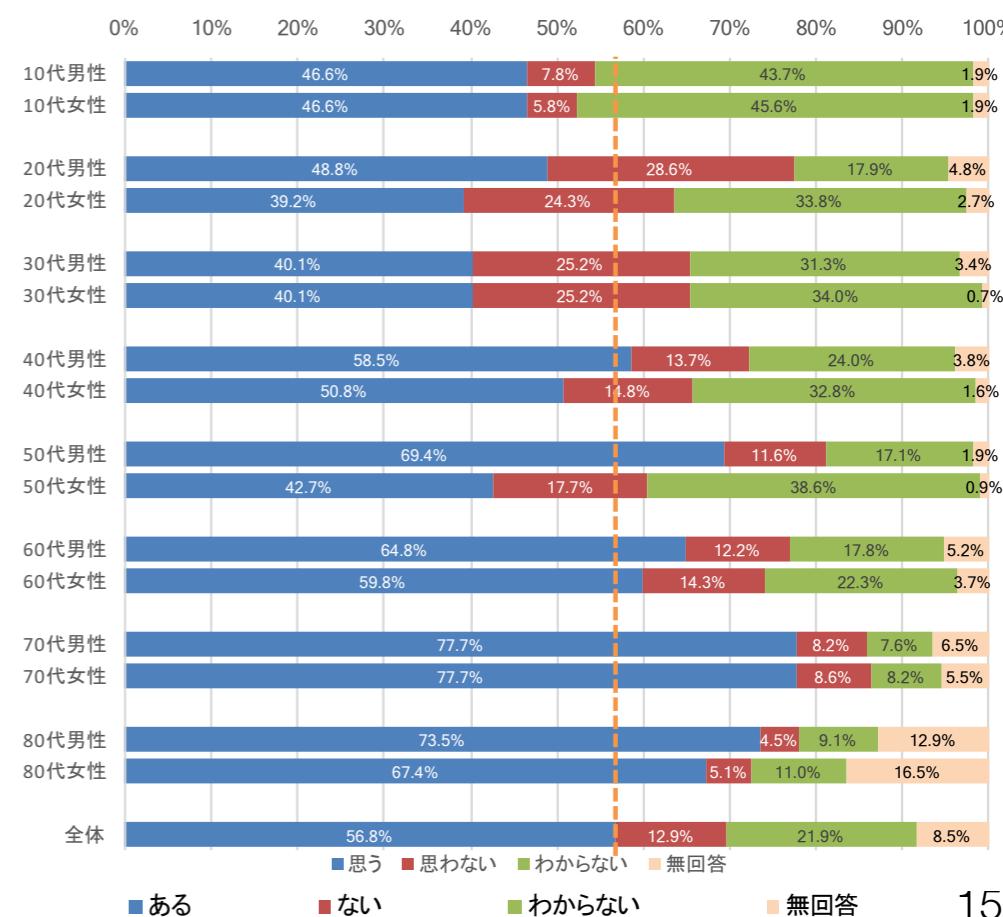
30～50代も4～5割は愛着あり

愛着と定住意向が繋がっていないのは…

将来への希望・安心感が足りていない?  
(不安の方が大きい)

【注意】20代男性の愛着度が4割以下と低い

H29年度調査時の地域への愛着



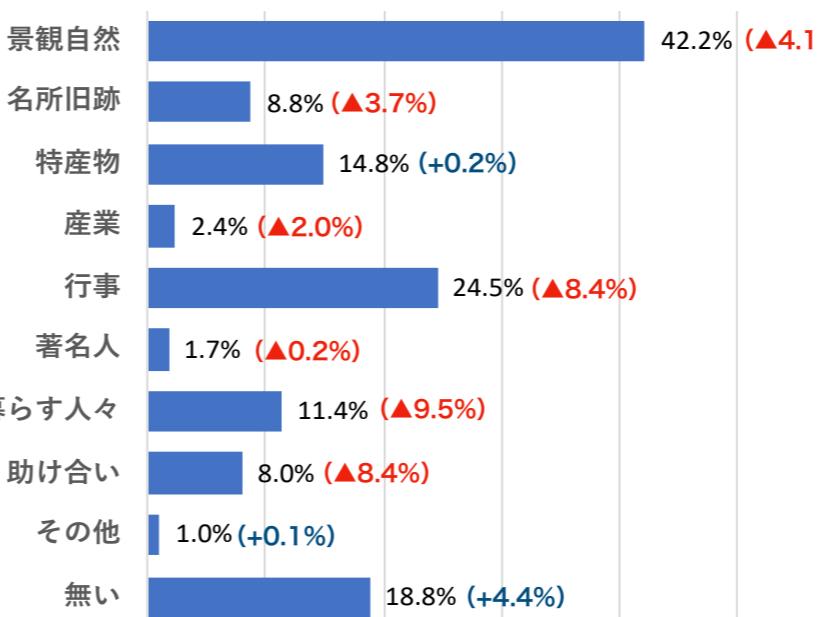
# 誇りに思う地域資源は何か

村上市・砂山地域 (2023)

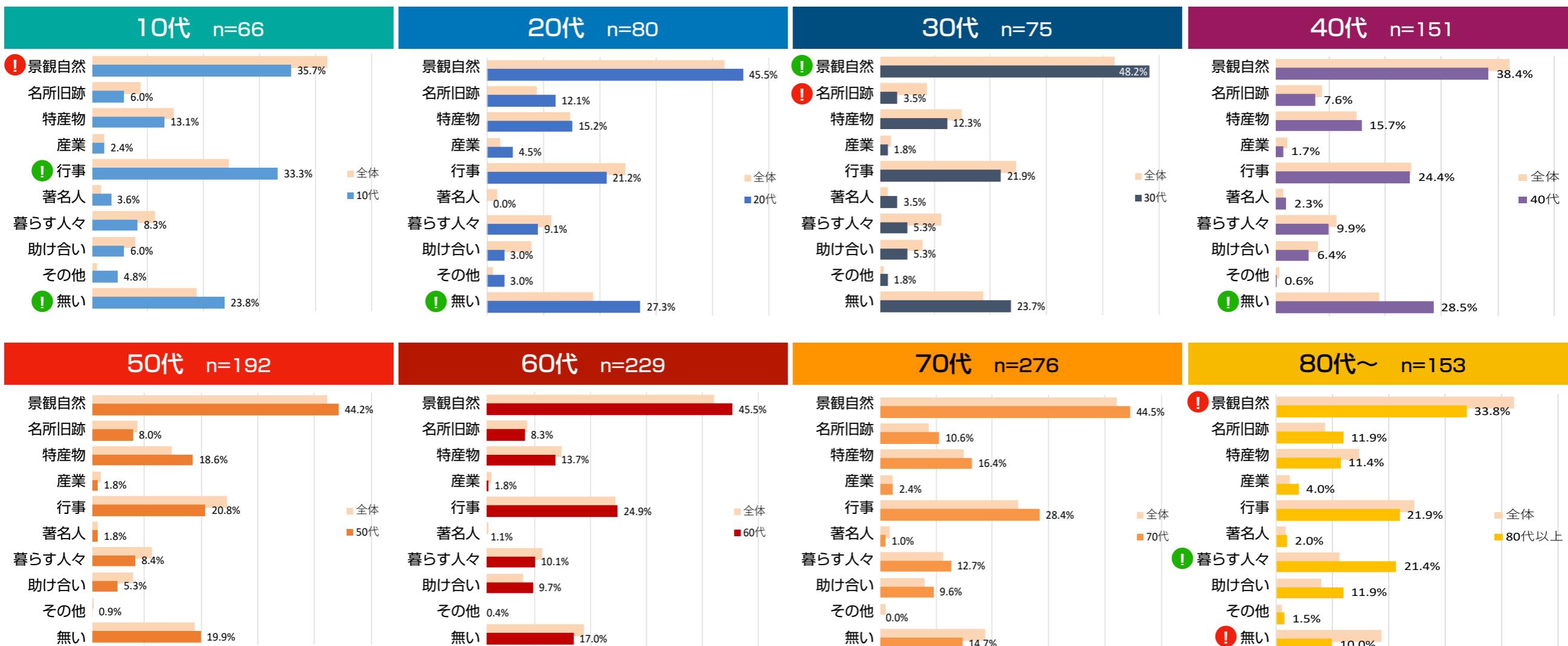
## 地域全体 (複数回答) 括弧内は前回調査 (H29) からの増減

### 【誇りに思う地域資源のトップ5】

- ① 景観・自然環境 (42.2%) (▲4.1%)
- ② 行事 (24.5%) (▲8.4%)
- ③ 無い (18.8%) (+4.4%)
- ④ 特産物 (14.8%) (+0.2%)
- ⑤ 暮らす人々 (11.4%) (▲9.5%)



**【注意】**  
前回調査 (H29) からの数値増減は、コロナ禍の影響を多分に受けた可能性があることを考慮する必要がある。



! 地域平均よりも5%以上高い項目

! 地域平均よりも5%以上低い項目

# 日々の暮らしの心配ごと

(複数回答)

## 地域全体での集計結果

年代によって心配ごとは違う

10代

10代	
1 進学・就職に関するこ	40.5%
2 安定して収入が得られるか	31.0%
3 通学・学習環境のこと	
4 近隣にお店がなくなり、日常の買物が不便になること	26.2%
5 自分自身の健康面のこと	20.2%

20代

20代	
1 災害への備えや避難など防災・安全に関するこ	30.3%
2 屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	28.8%
3 親の介護や生活支援のこと	27.3%
4 安定して収入が得られるか	25.8%
5 自分自身の健康面のこと	24.2%

30代

30代	
1 災害への備えや避難など防災・安全に関するこ	40.4%
2 安定して収入が得られるか	39.5%
3 親の介護や生活支援のこと	38.6%
4 空き家が増えて管理が行き届かなくなること	28.9%
5 安心して子育てができる環境があるか(保育園・学校／親同士の交流等)	25.4%

自分自身の健康面

43.2%

5

空き家が増えて管理が行き届かなくなる

35.2%

4

災害への備えや避難など防災・安全

34.9%

1

屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪

31.8%

2

【10~50代】  
安定した収入への  
不安が大きい

親の介護や生活支援

25.8%

3

安定して収入が得られるか

25.1%

2

医療や福祉等の公的サービスが今と同じように受けられるか

24.8%

4

近隣にお店がなくなり、日常の買物が不便になる

24.4%

農業を営む環境（担い手を含む）や農地・山林の維持管理

18.9%

買い物・通院などの交通手段

17.3%

自家用車やバイクの運転が不安になる

14.4%

家の軽作業（庭木の管理等）

13.7%

生活道路や水路などの維持管理

12.3%

地域の行事や子ども向けイベントが今と同じように継続できるか

12.3%

地域の役職や共同作業が、今までと同じやり方でできるか

12.1%

【10代】

進学・就職

通学・学習環境

への不安が大きい

仲間と気軽に集まる場所・機会がない

10.4%

1

進学・就職

9.4%

1

食事づくり、ゴミ出しなどの日常生活

8.3%

2

通学・学習環境

7.2%

2

安心して子育てができる環境があるか（保育園・学校／親同士の交流等）

7.0%

5

身近に預貯金を引き出せる金融店舗（ATM）がない

6.8%

3

その他

2.0%

4

10代

20代

30代

# 日々の暮らしの心配ごと

(複数回答)

年代によって心配ごとは違う

40代

40代	
1	親の介護や生活支援のこと
2	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと
3	災害への備えや避難など防災・安全に関すること
4	安定して収入が得られるか
5	空き家が増えて管理が行き届かなくなること

50代

50代	
1	親の介護や生活支援のこと
2	空き家が増えて管理が行き届かなくなること
3	自分自身の健康面のこと
4	災害への備えや避難など防災・安全に関すること
	安定して収入が得られるか

60代

60代	
1	空き家が増えて管理が行き届かなくなること
2	自分自身の健康面のこと
3	災害への備えや避難など防災・安全に関すること
4	親の介護や生活支援のこと
	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと

## 地域全体での集計結果



# 日々の暮らしの心配ごと

(複数回答)

## 地域全体での集計結果

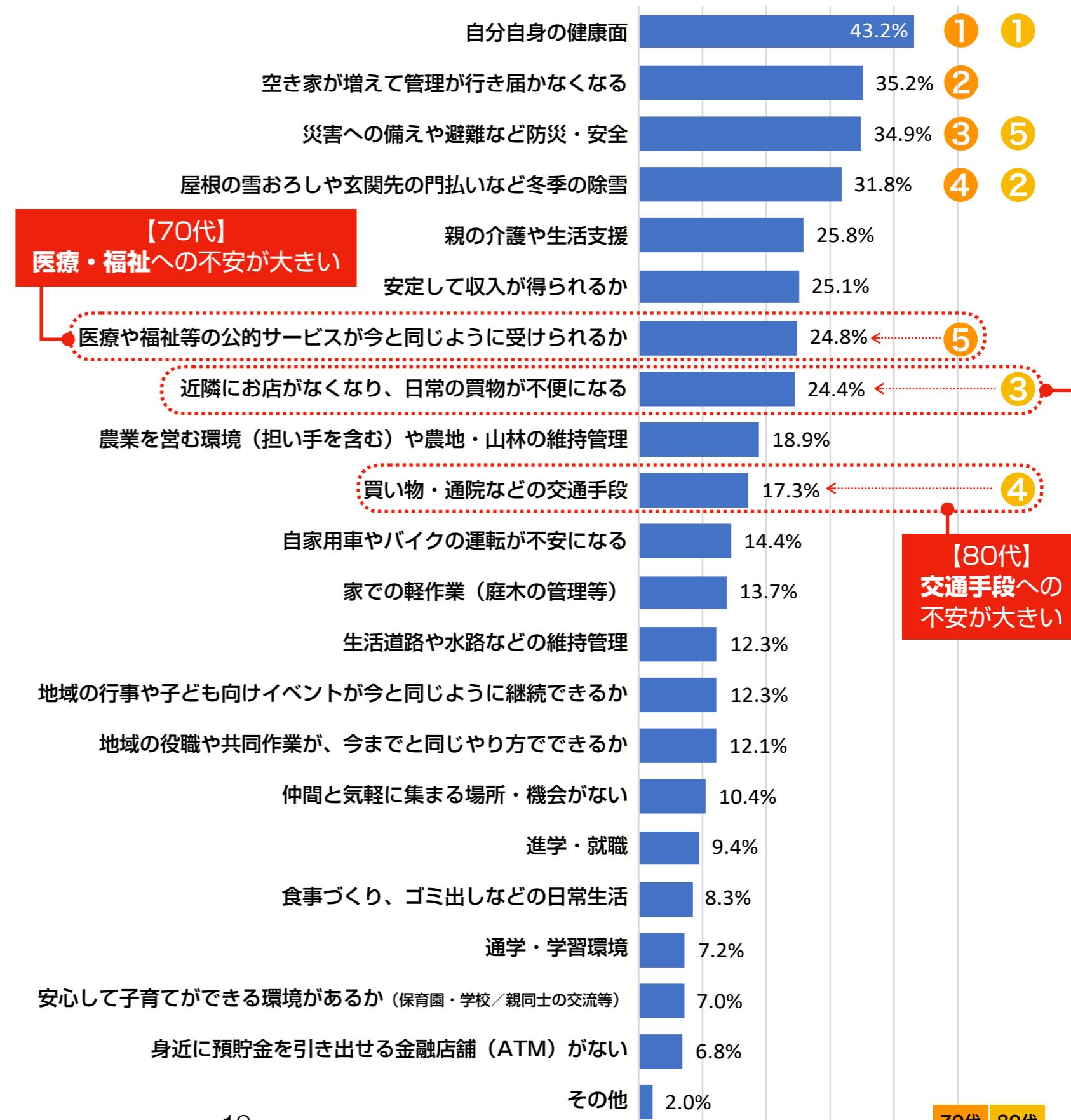
年代によって心配ごとは違う

70代

70代	
1	自分自身の健康面のこと
2	空き家が増えて管理が行き届かなくなること
3	災害への備えや避難など防災・安全に関すること
4	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと
5	医療や福祉等の公的サービスが今と同じように受けられるか

80代

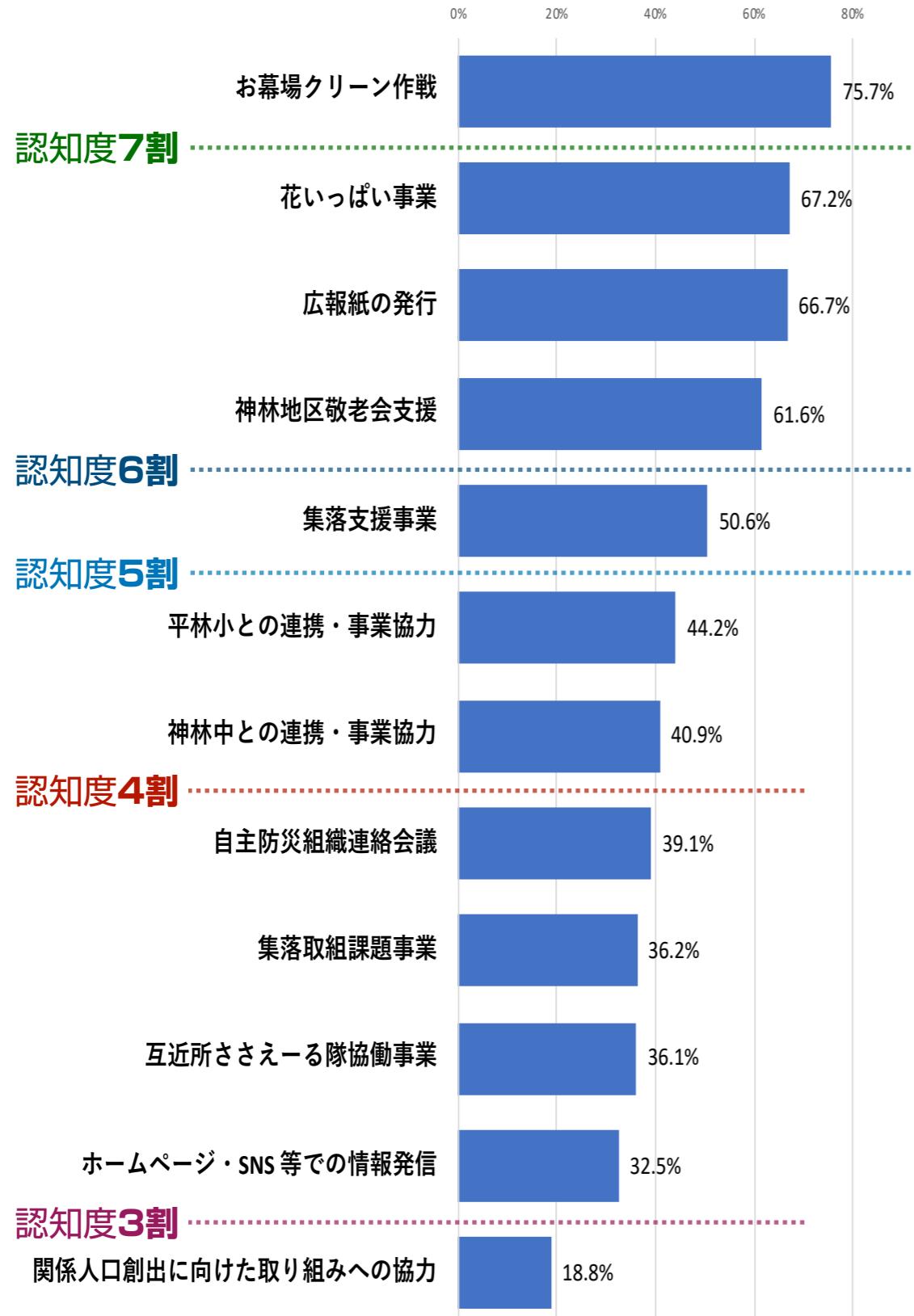
80代	
1	自分自身の健康面のこと
2	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと
3	近隣にお店がなくなり、日常の買物が不便になること
4	買い物・通院などの交通手段に関すること
5	災害への備えや避難など防災・安全に関すること



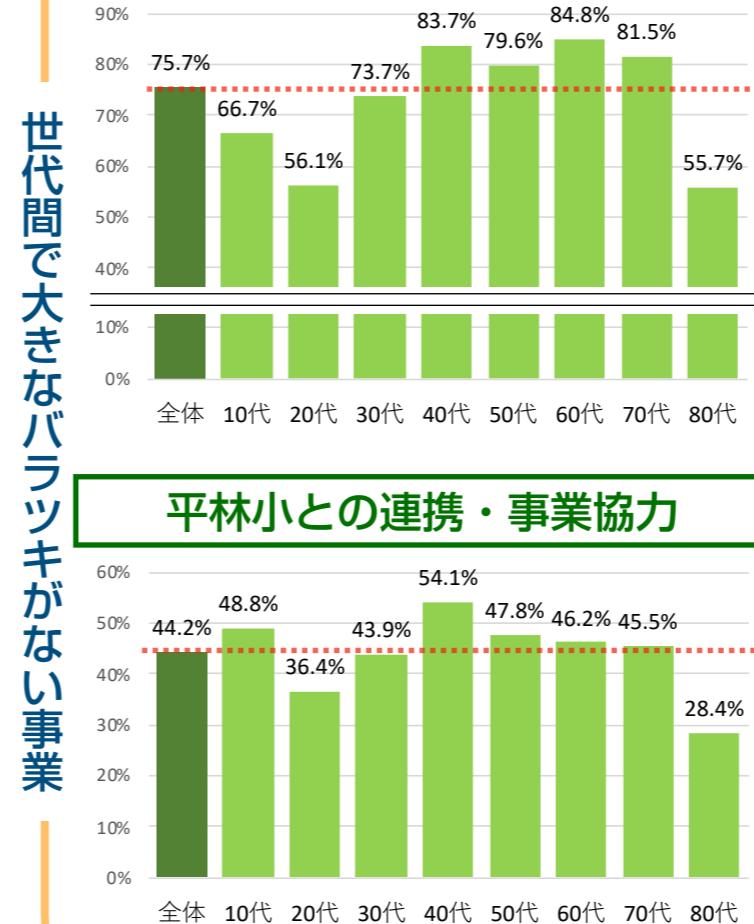
# まちづくり協議会事業の認知度

村上市・砂山地域 (2023)

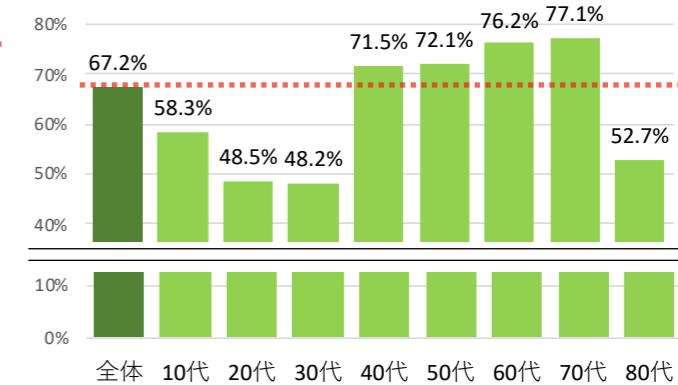
## 地域全体での集計結果



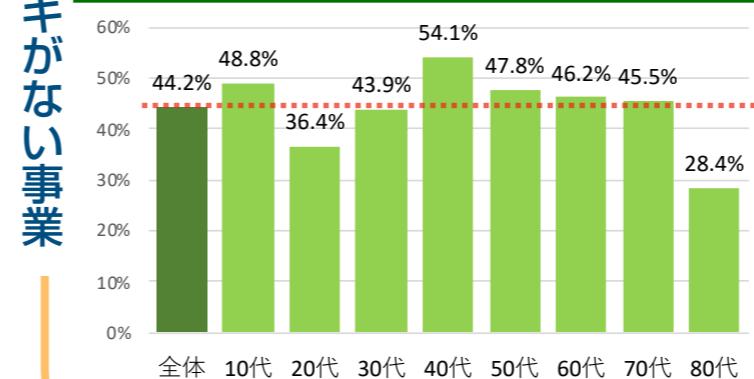
## お幕場クリーン作戦



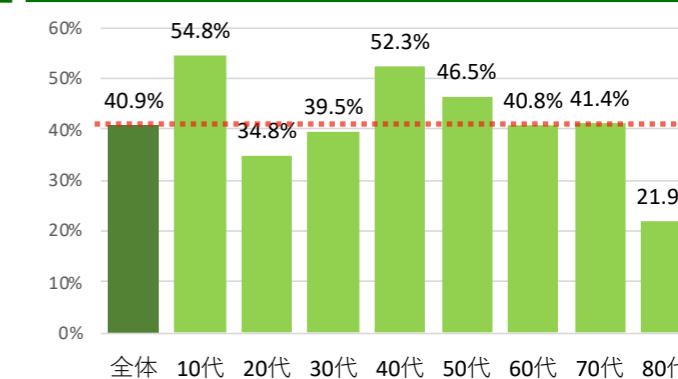
## 花いっぱい事業



## 平林小との連携・事業協力

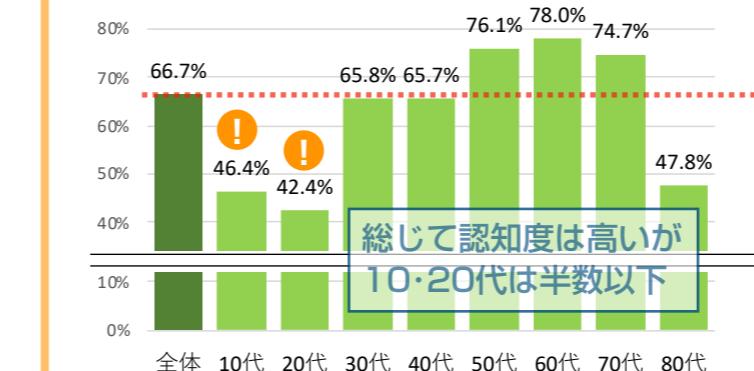


## 神林中との連携・事業協力

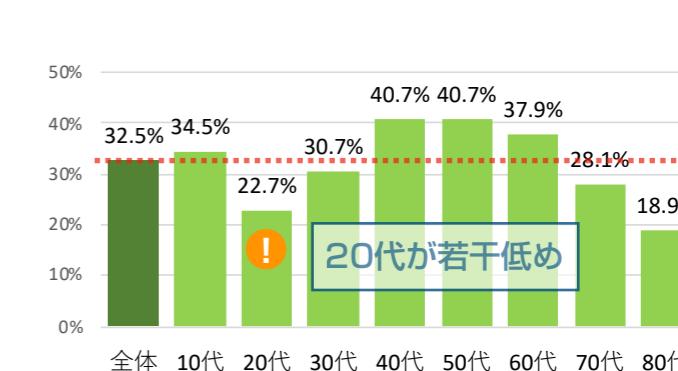


若年層に情報が届いているかの確認を！

## 広報誌の発行



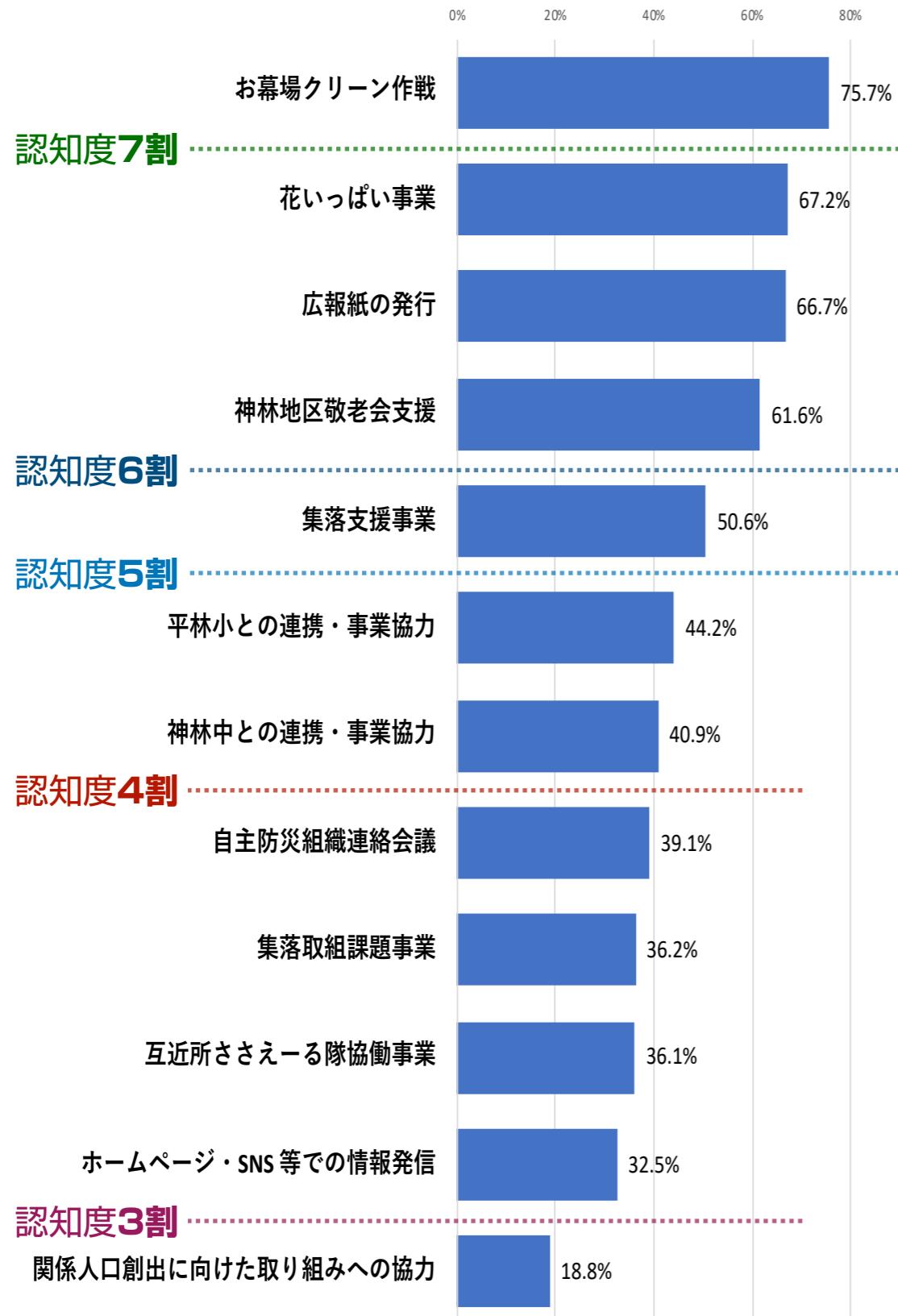
## HP・SNS等での情報発信



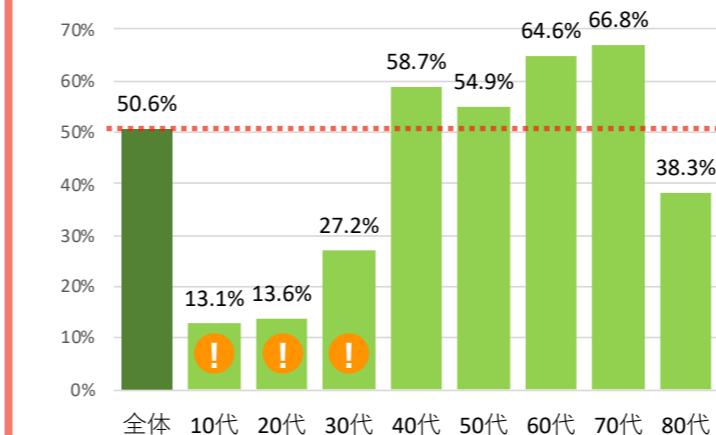
# まちづくり協議会事業の認知度

村上市・砂山地域 (2023)

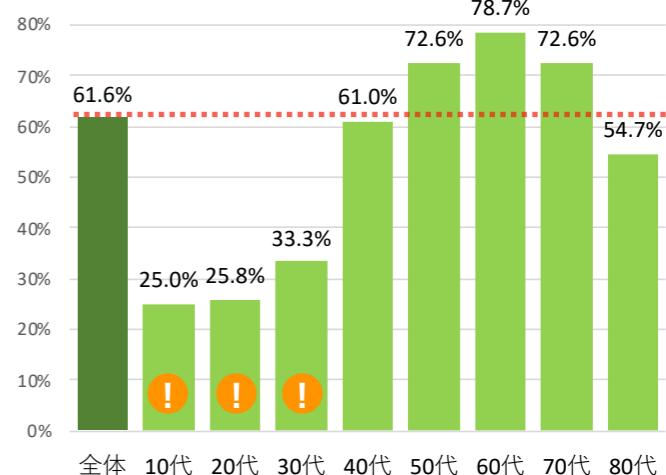
## 地域全体での集計結果



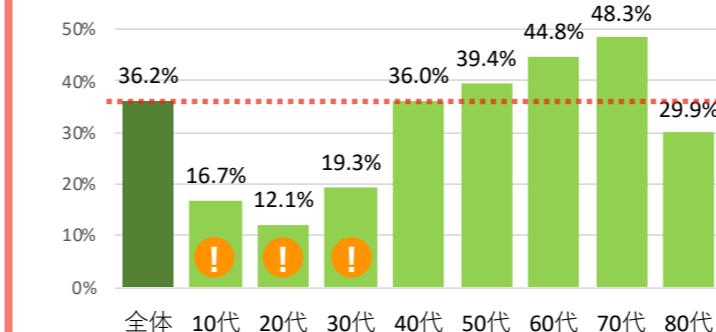
## 集落支援事業



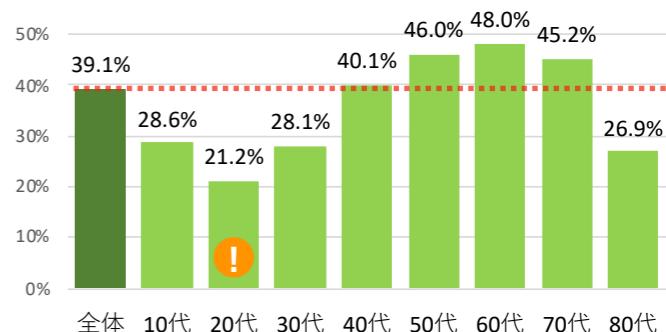
## 神林地区敬老会支援



## 集落取組課題事業



## 自主防災組織連絡会議

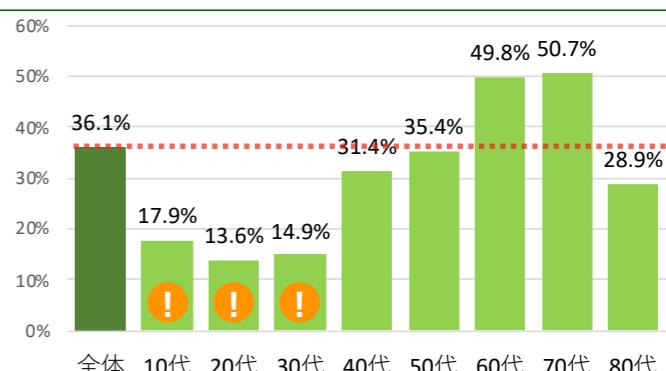


### 【注意】

集落活動・防災・福祉関連の取り組みについて、内容・意義等を若年層に伝える機会は十分か？

※単なる関心の有無だけの問題？

## 互近所ささえーる隊協働事業



# 取り組みの重要度

村上市・砂山地域（2023）

【注意】事業の認知度が重要度の回答に大きく影響している可能性があるため、「重要度の高さ＝事業の優先度」ではない。

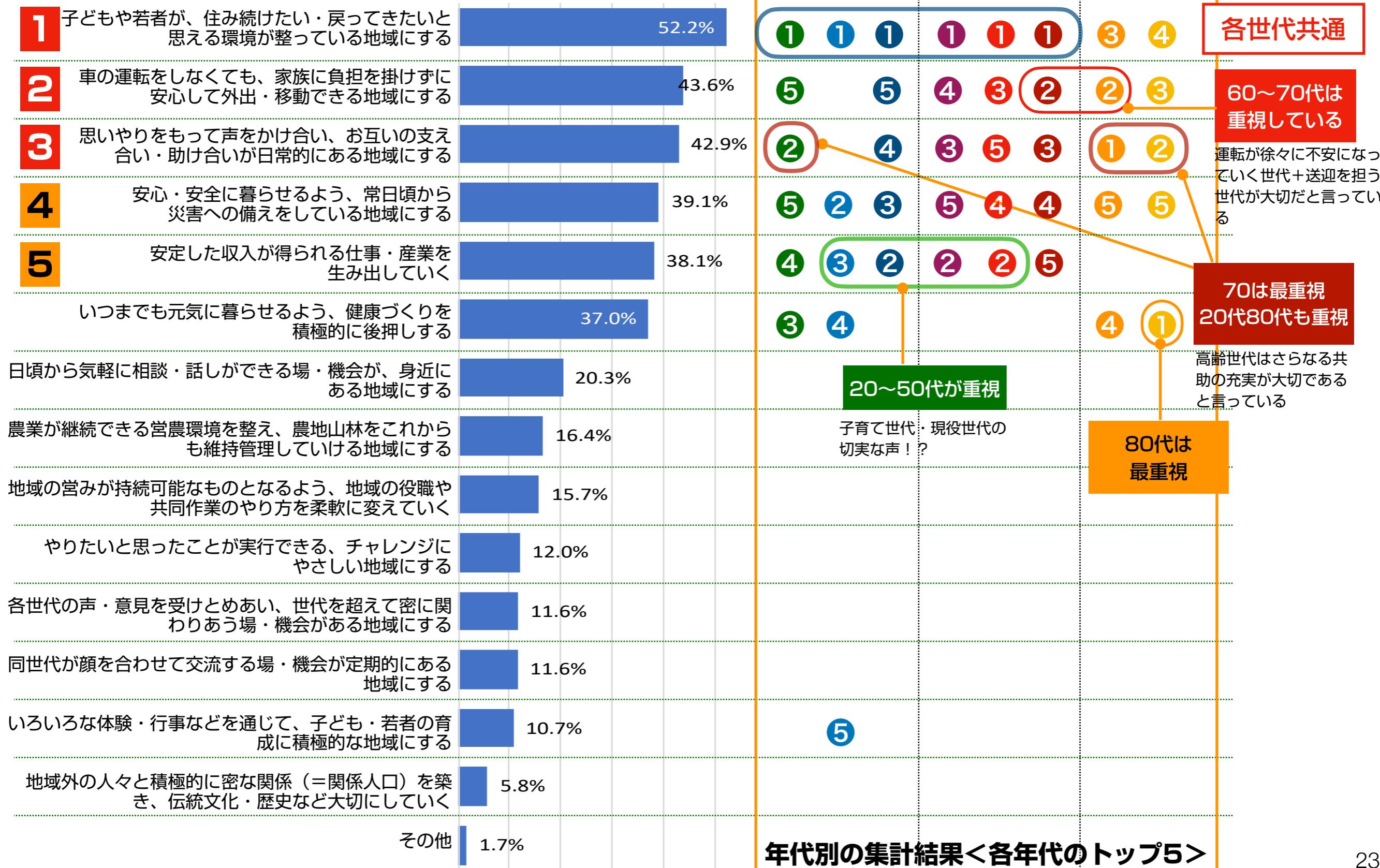
	全体	10~20代	30~40代	50~60代	70代~					
1	お幕場クリーン作戦	64.8%	お幕場クリーン作戦	60.0%	お幕場クリーン作戦	67.1%	お幕場クリーン作戦	70.4%	お幕場クリーン作戦	59.6%
2	集落支援事業	60.6%	神林中との連携・事業協力	58.0%	集落支援事業	60.5%	自主防災組織連絡会議	67.0%	集落支援事業	58.2%
3	花いっぱい事業	58.8%	平林小との連携・事業協力	57.3%	花いっぱい事業	59.4%	集落支援事業	66.8%	花いっぱい事業	56.6%
4	広報紙の発行	57.5%	花いっぱい事業	51.3%	自主防災組織連絡会議	57.3%	広報紙の発行	65.4%	広報紙の発行	54.8%
5	自主防災組織連絡会議	55.7%	集落支援事業	49.3%	広報紙の発行	56.6%	花いっぱい事業	63.4%	神林地区敬老会支援	51.3%
6	神林地区敬老会支援	52.6%	自主防災組織連絡会議	49.3%	ホームページ・SNS等での情報発信	54.9%	神林地区敬老会支援	58.3%	自主防災組織連絡会議	45.6%
7	平林小との連携・事業協力	50.6%	ホームページ・SNS等での情報発信	47.3%	平林小との連携・事業協力	54.5%	平林小との連携・事業協力	55.9%	集落取組課題事業	44.4%
8	集落取組課題事業	48.7%	神林地区敬老会支援	45.3%	神林中との連携・事業協力	54.2%	集落取組課題事業	54.9%	平林小との連携・事業協力	41.4%
9	神林中との連携・事業協力	48.7%	広報紙の発行	43.3%	神林地区敬老会支援	49.7%	神林中との連携・事業協力	54.9%	互近所ささえーる隊協働事業	41.0%
10	ホームページ・SNS等での情報発信	44.1%	集落取組課題事業	42.0%	集落取組課題事業	49.3%	ホームページ・SNS等での情報発信	52.9%	神林中との連携・事業協力	36.7%
11	互近所ささえーる隊協働事業	43.6%	互近所ささえーる隊協働事業	36.7%	互近所ささえーる隊協働事業	40.2%	互近所ささえーる隊協働事業	50.5%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力	28.6%
	関係人口創出に向けた取り組みへの協力	36.3%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力	35.3%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力	37.4%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力	43.7%	ホームページ・SNS等での情報発信	28.2%

世代間で重要度にギャップがある事業	重要度が特に高め	神林中との連携・事業協力 平林小との連携・事業協力	HP・SNS等での情報発信	50~60代	70代~
	重要度がやや低め	10~20代	30~40代	平林小との連携・事業協力 神林中との連携・事業協力	平林小との連携・事業協力 神林中との連携・事業協力
		広報紙の発行			

# これからの地域づくりで大切なこと

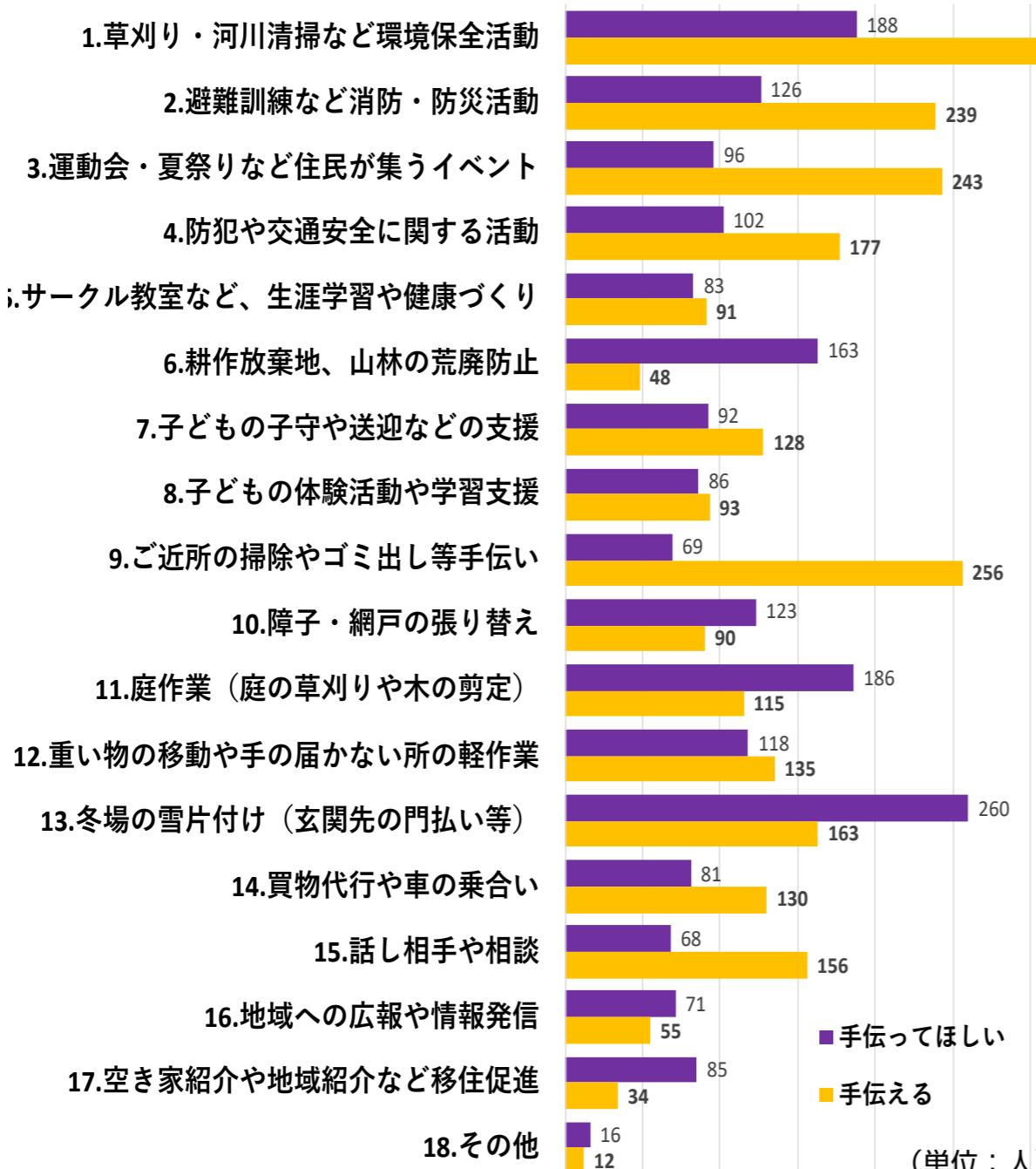
村上市・砂山地域 (2023)

## 地域全体での集計結果



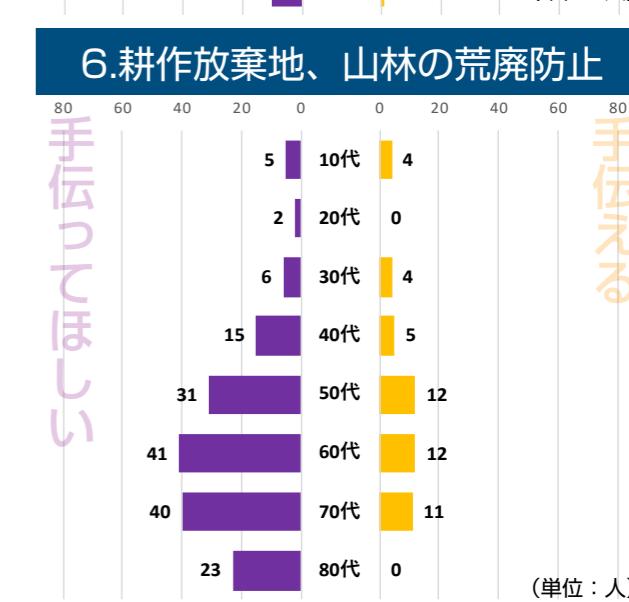
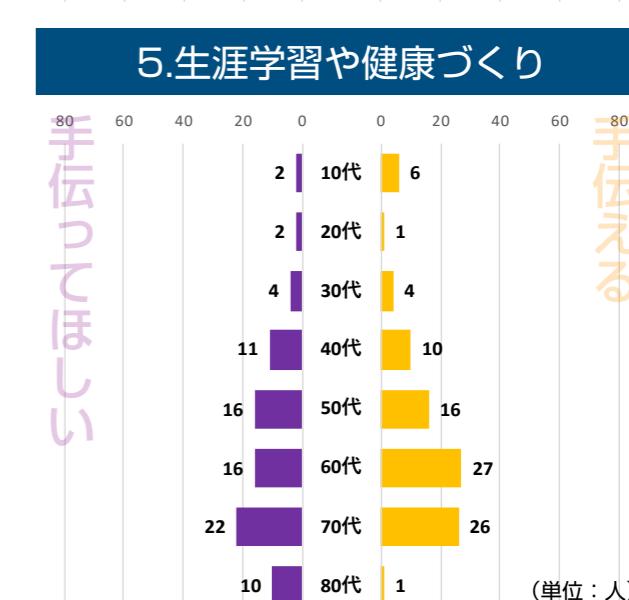
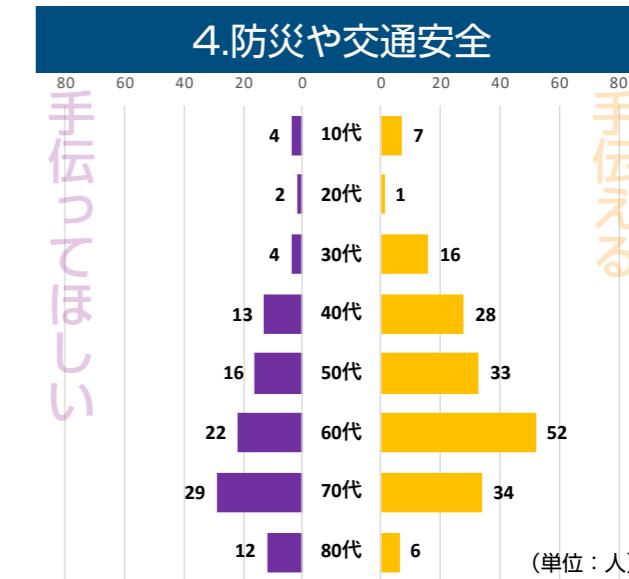
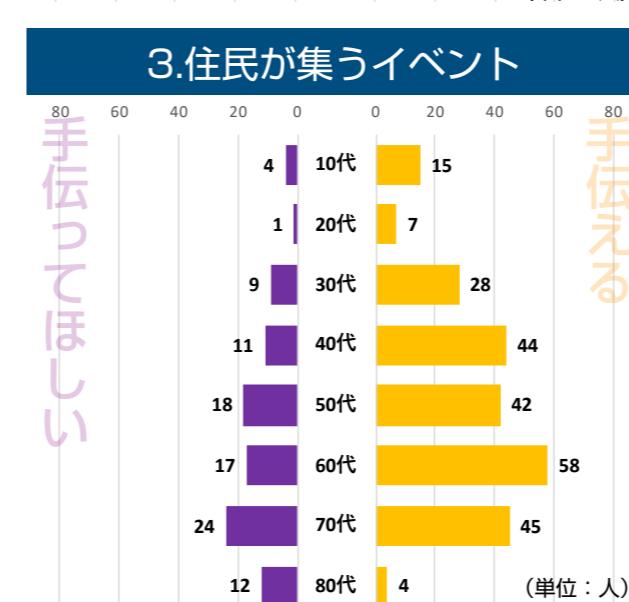
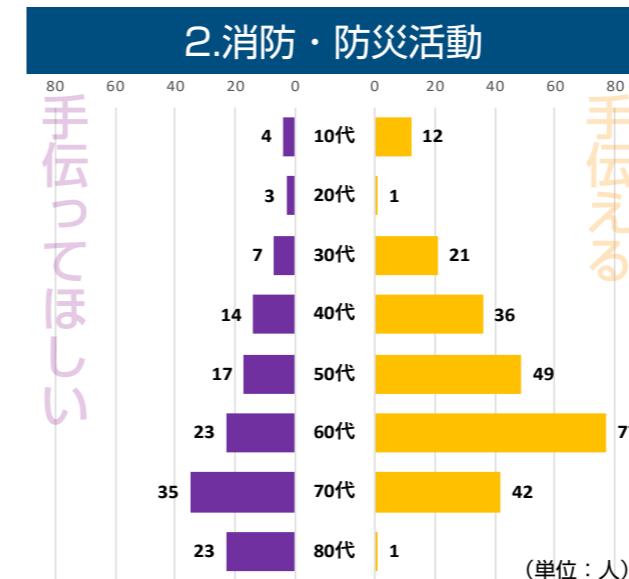
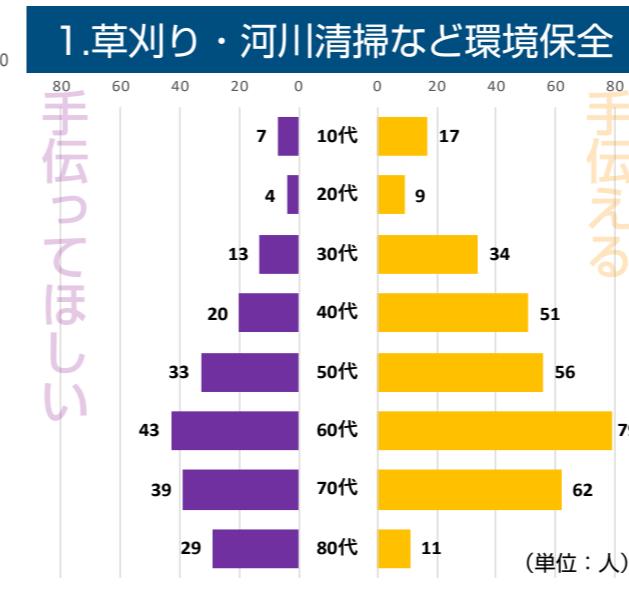
# 手伝ってほしい／手伝えること

村上市・砂山地域 (2023)



**大半の作業項目で  
手伝ってほしい < 手伝える**

共助の担い手となる住民は、潜在的にかなりの人数がいる！



手伝える

手伝える

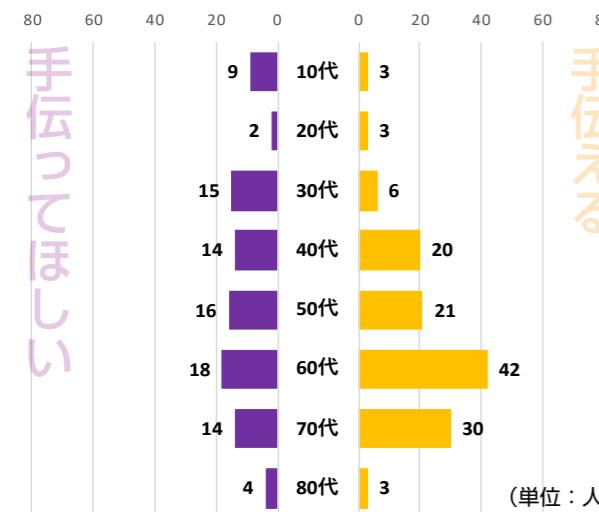
手伝える

手伝える

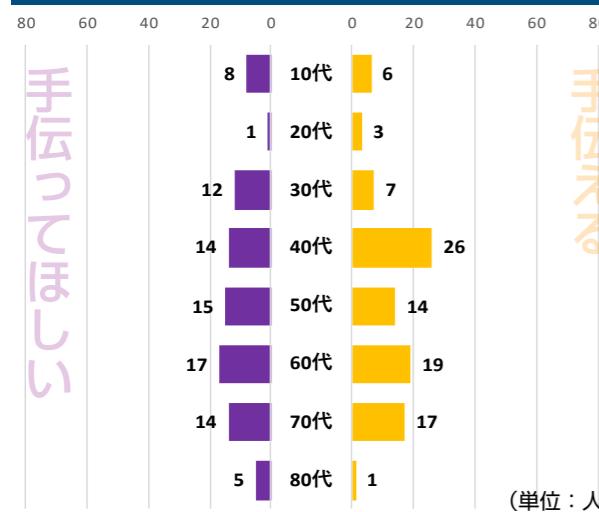
# 手伝ってほしい／手伝えること

村上市・砂山地域 (2023)

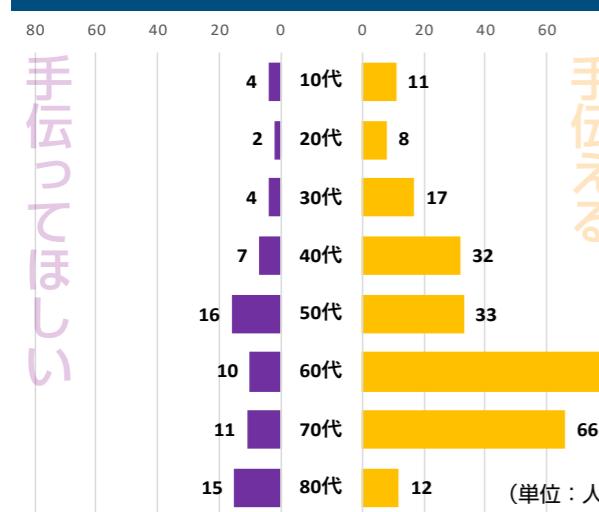
## 7.子守や送迎などの支援



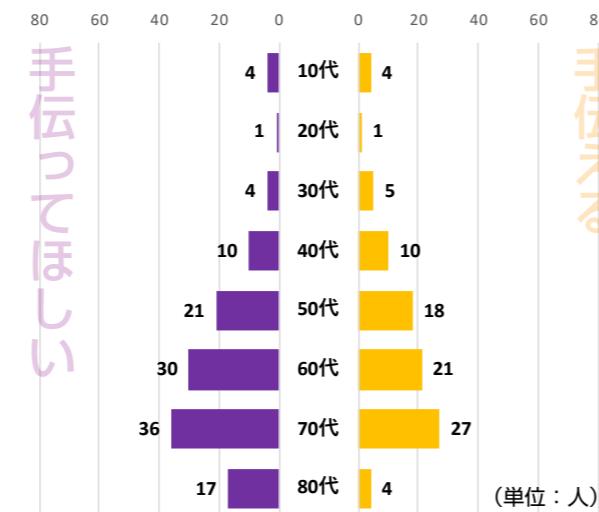
## 8.子どもの体験活動や学習支援



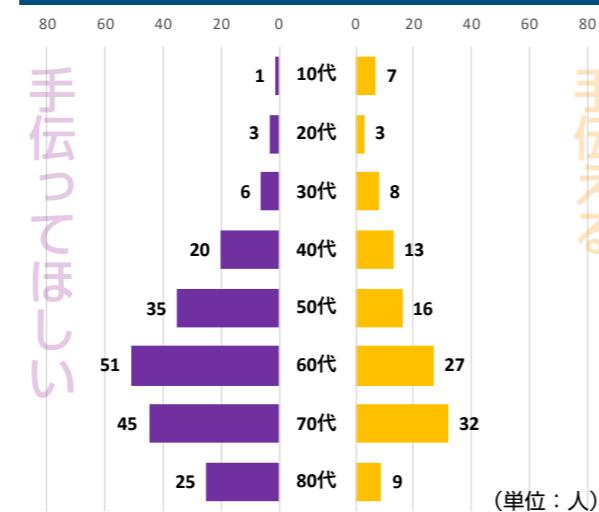
## 9.掃除やゴミ出し等手伝い



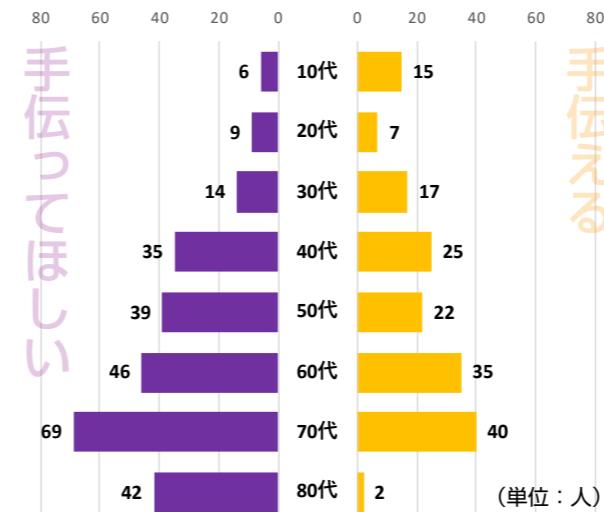
## 10.障子・網戸の張り替え



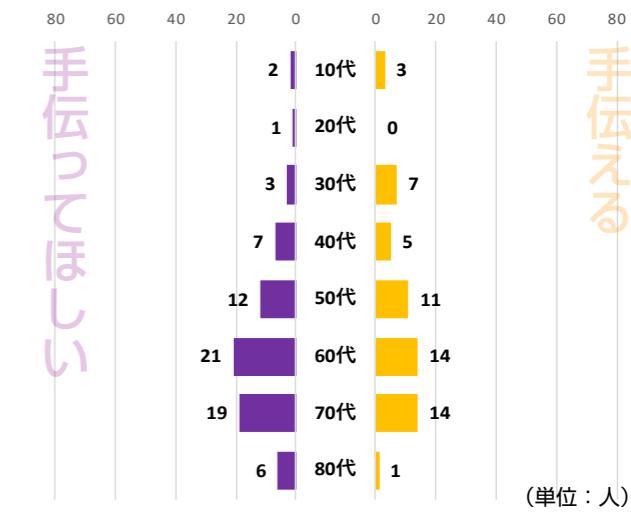
## 11.庭作業（庭の草刈りや木の剪定）



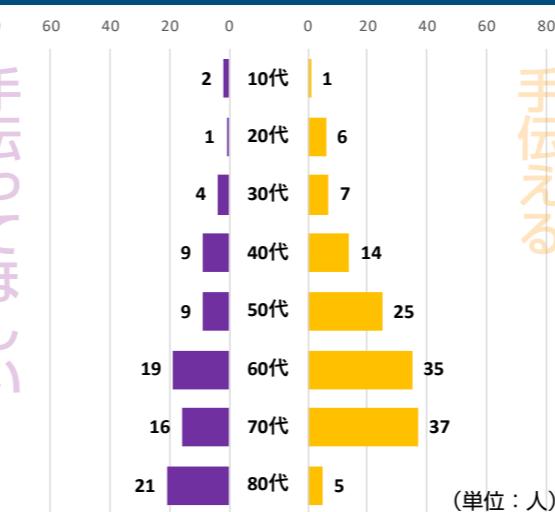
## 13.冬場の雪片付け（玄関先の門払い等）



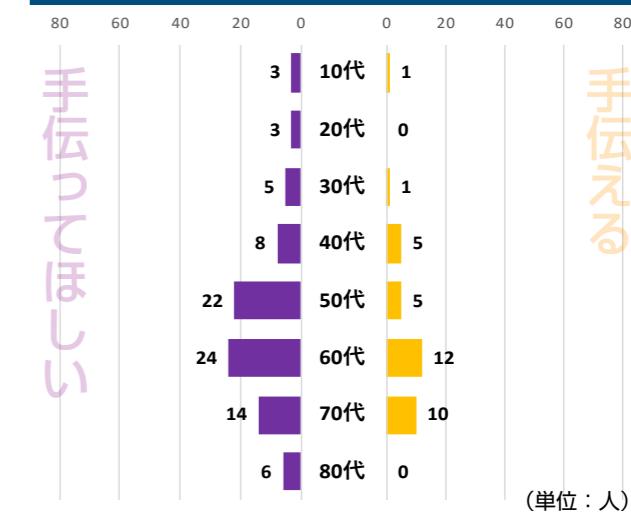
## 16.地域への広報や情報発信



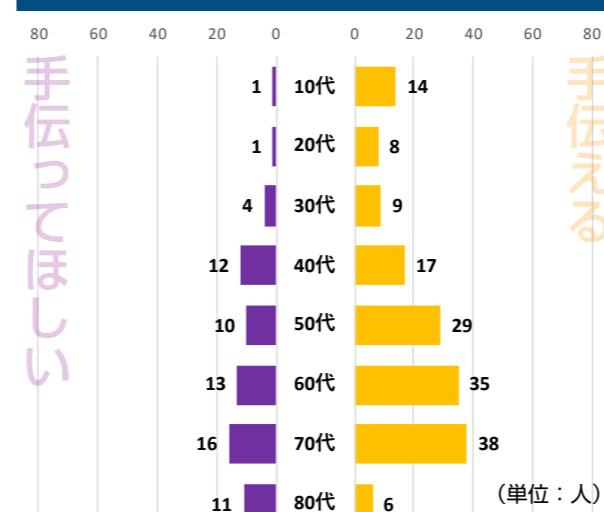
## 14.買い物代行や車の乗り合い



## 17.空き家紹介等移住促進



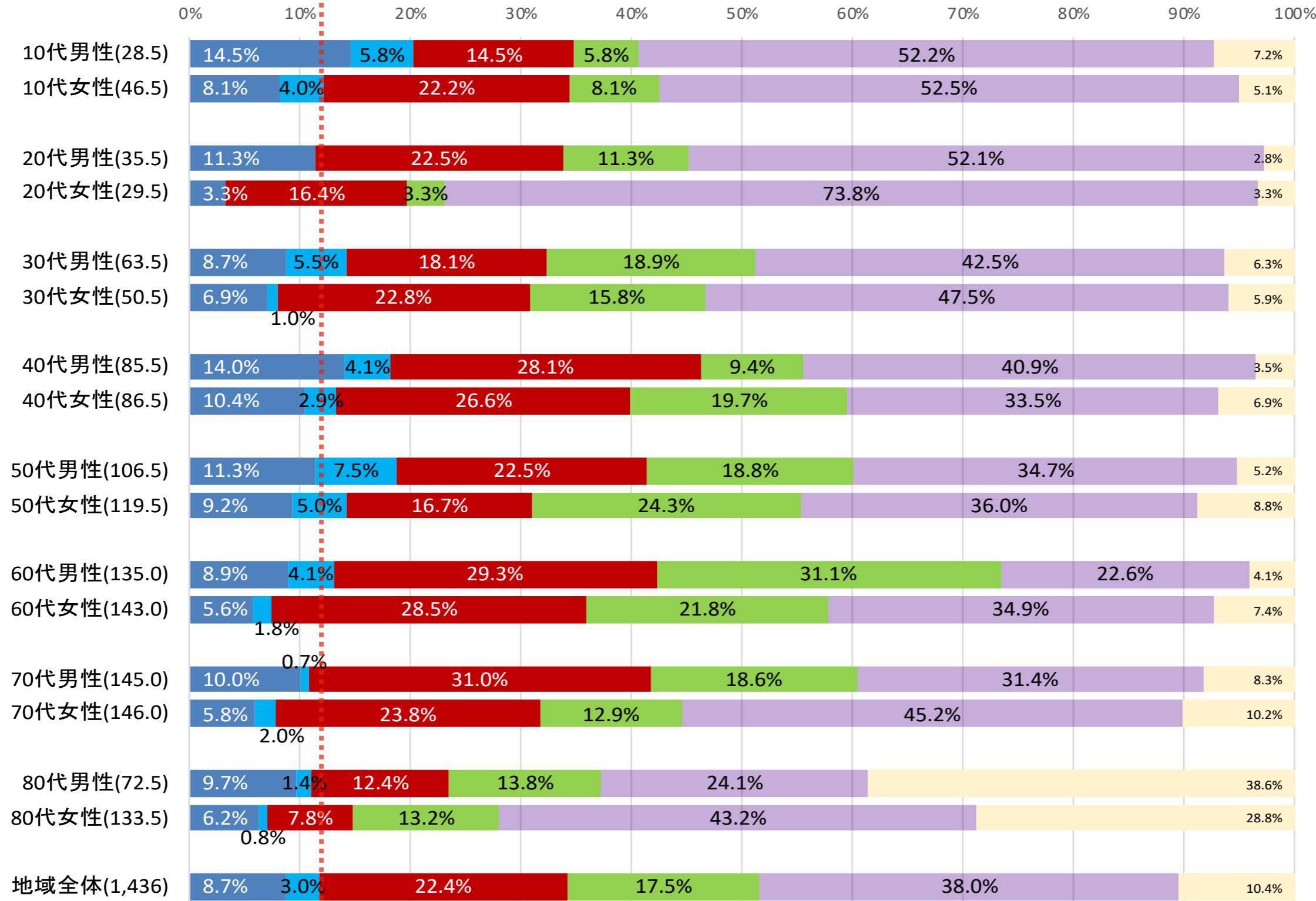
## 15.話し相手や相談



# まち協を小中学校区に合わせて再編すべきか？

村上市・砂山地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算) )

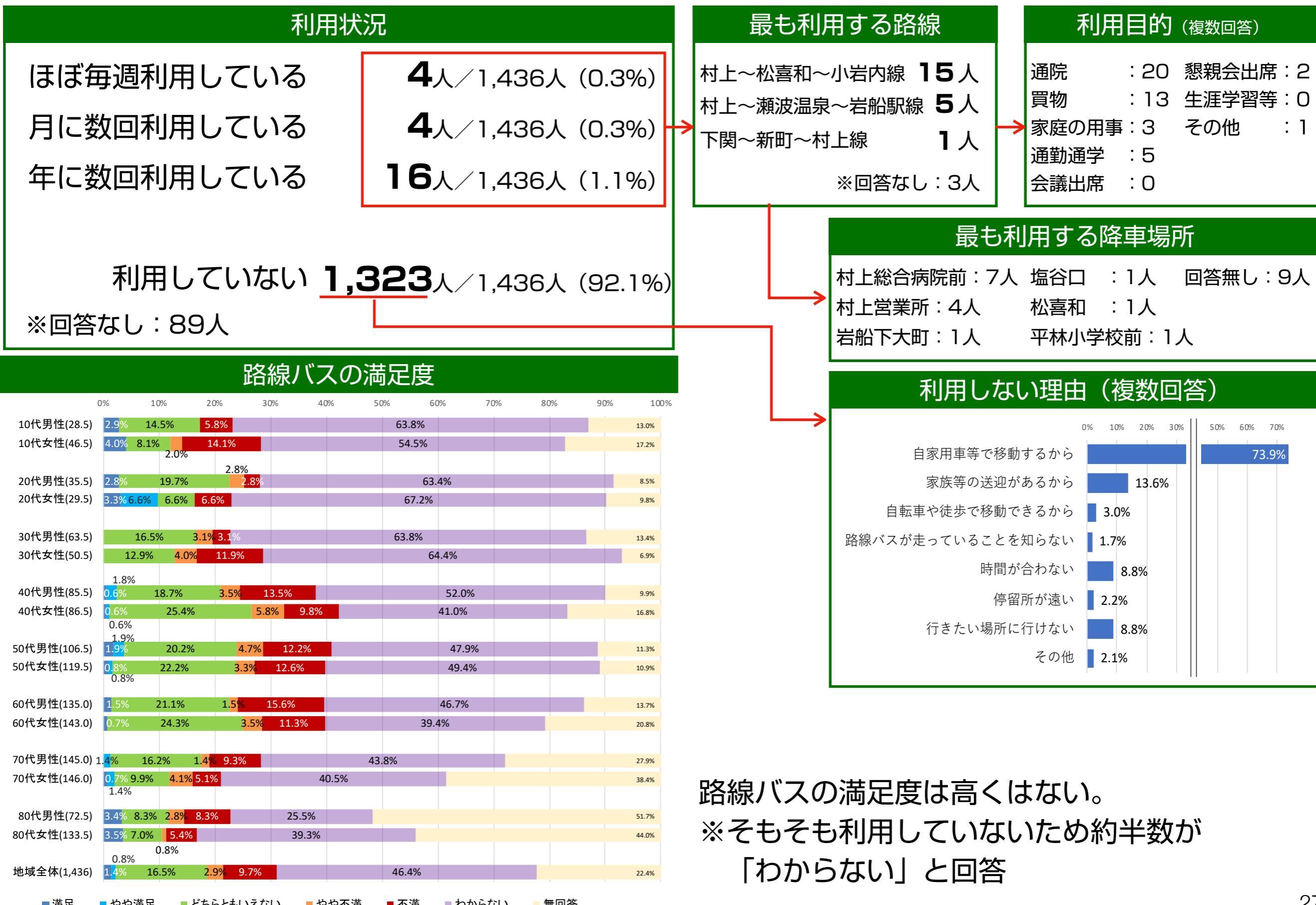


必要性を感じていない住民は2割強  
再編の必要性を感じているのは地域全体では約1割

■ 小学校区単位 ■ 中学校区単位 ■ 必要なし ■ どちらともいえない ■ わからない ■ 無回答

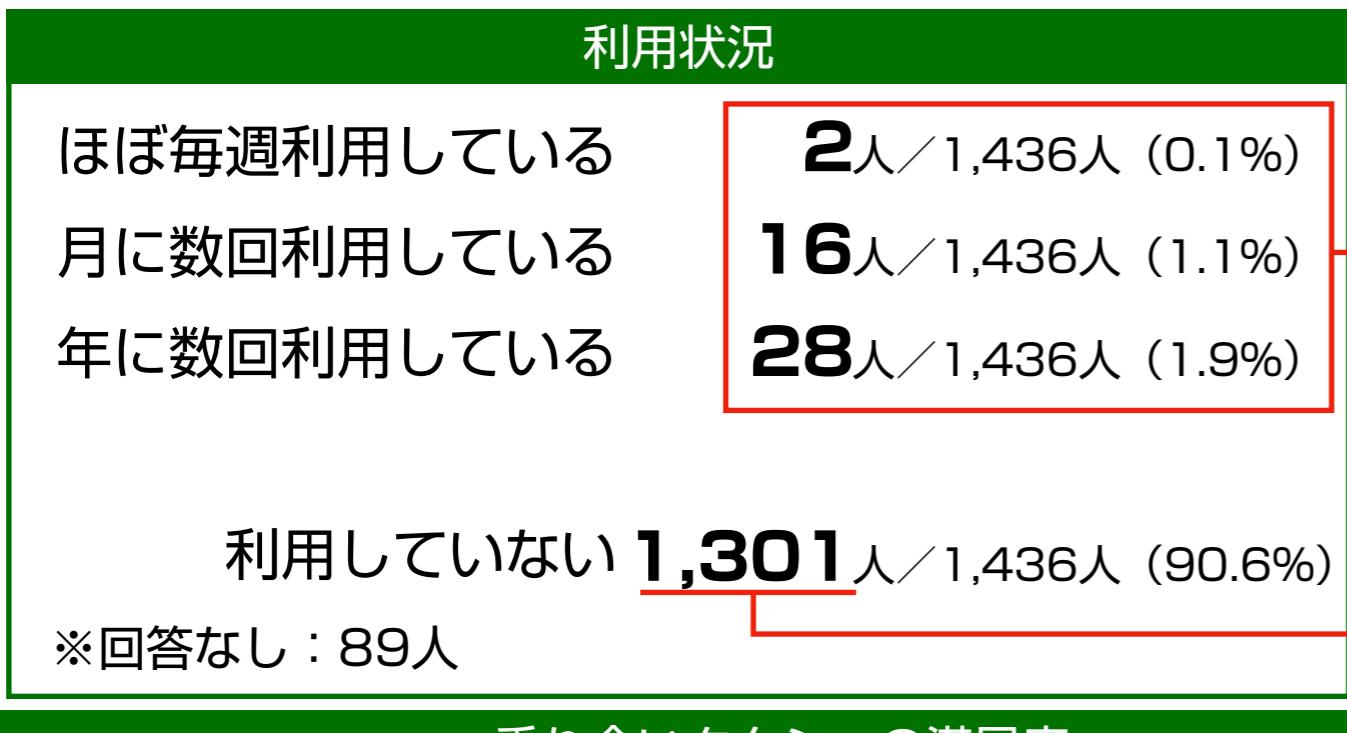
# 路線バスの利用状況

村上市・砂山地域 (2023)



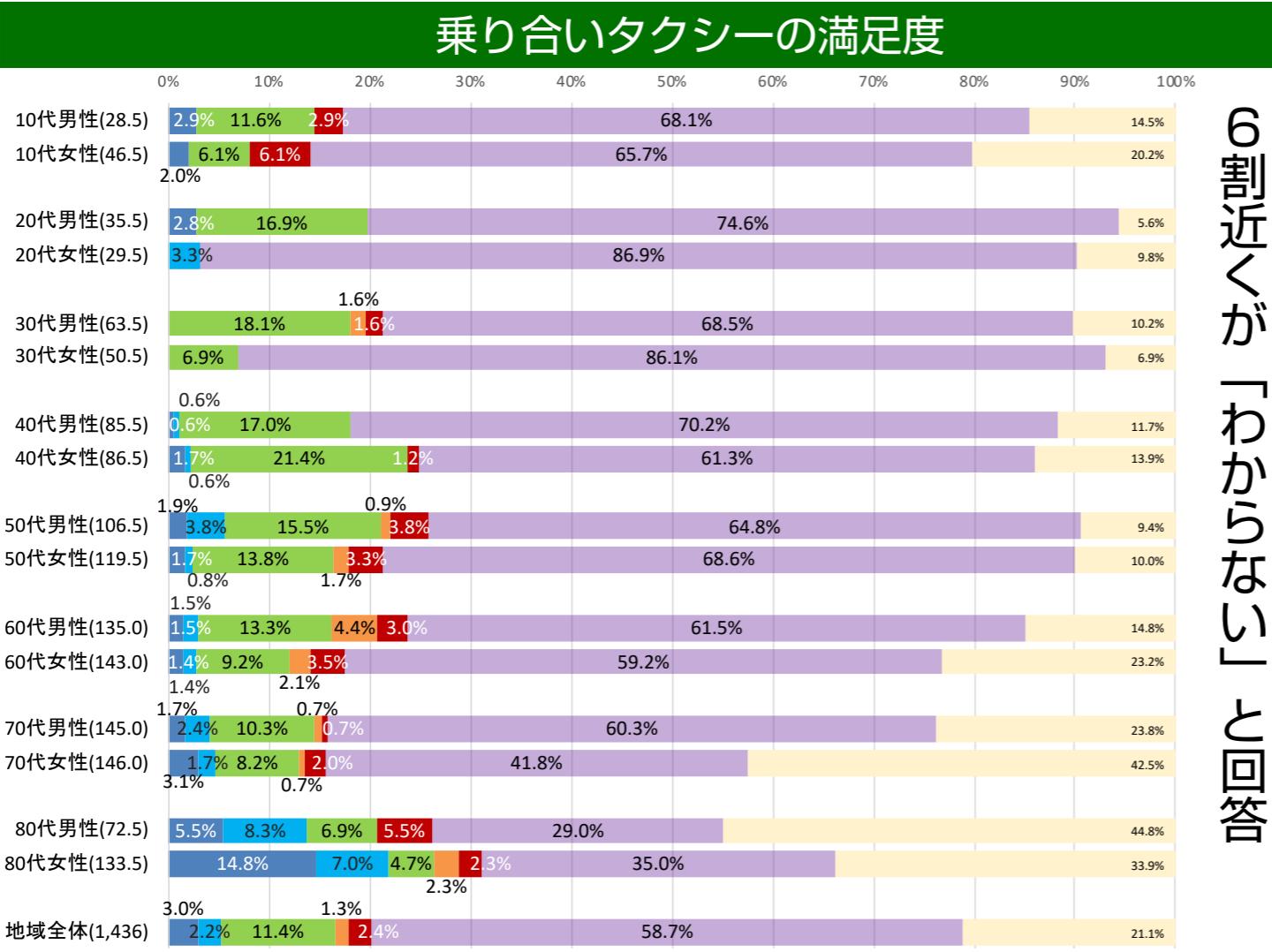
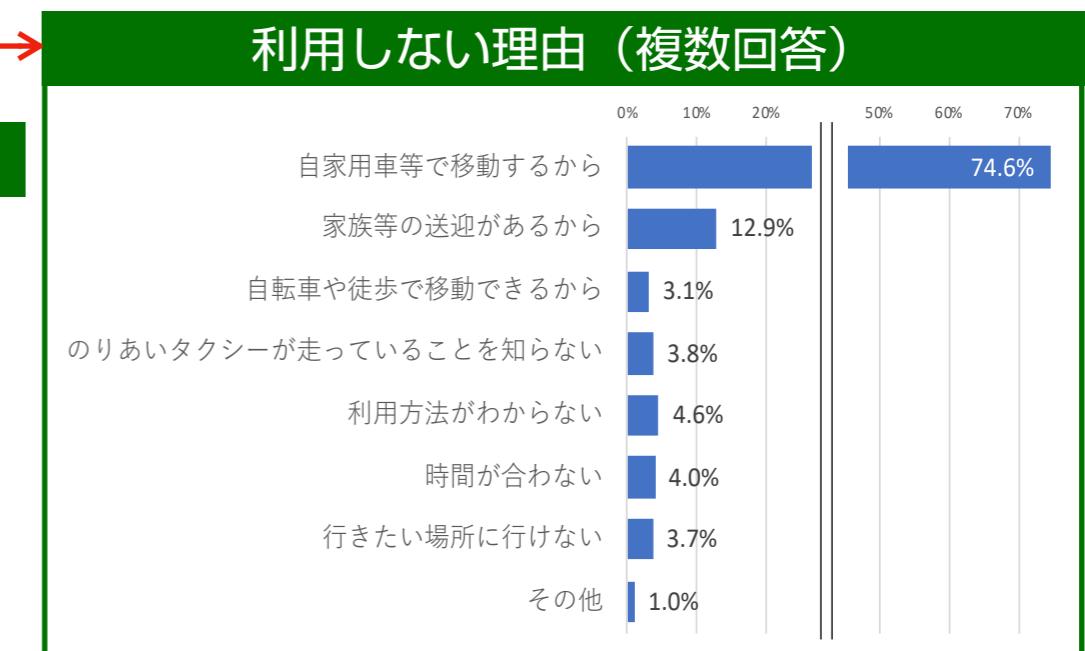
# 乗り合いタクシーの利用状況

村上市・砂山地域 (2023)



## 利用目的 (複数回答)

通院	：48
買物	：12
家庭の用事	：6
通勤通学	：2
会議出席	：0
懇親会出席	：1
生涯学習等	：1
その他	：1



利用者が少ないこともあり、  
6割近くが「わからない」と回答

## ☑ 農業従事者の84.8%が60代以上

- ▶ このままだと20年後には50人程度（現在の約1/3）になってしまう見込み。

農地の維持管理は  
将来的どうなる？

## ☑ 80代になり自分で車の運転ができなくなっても、親族等による車での送迎で移動手段は確保されている

- ▶ 80代になると、免許なし（返納含む）の割合が増加し、「車での送迎」が主な移動手段になる割合が高まる。（特に女性）
- ▶ 60～70代の1/3が単身もしくは夫婦のみ世帯という家族構成。
- ▶ 女性は運転に不安を感じている（特に夜間や冬期）割合が男性よりも高い。

親族等による車での送迎を、今後も同じようにあてにできるか？

## ☑ 路線バス・乗り合いタクシーはほとんど利用されていない

- ▶ 月数回以上、路線バスを利用しているのは0.6%、のりあいタクシーは1.2%という状況。

将来的に公共交通は  
このままで本当によいのか？

## ☑ 集落内・地区内共に約2/3が相談相手がいる

- ▶ 20代は2/3、10代女性・30・50代も4~5割前後が集落内に相談相手がない。
- ▶ 20代及び30代男性は4~6割が地区内にも相談相手がない。

若年層のコミュニケーション機会のあり方・頻度を考えていく必要があるのでは？

## ☑ 4割近くが関心の有無に関わらず地域活動に参加している

- ▶ 50~70代男性は半数以上が参加。
- ▶ 30・40代男性も4割前後が参加。
- ▶ 関心あり+不参加はどの年代でも3~5割いる。
- ▶ 女性は「関心あり+不参加」の割合が男性よりも高い。
- ▶ 「関心なし+不参加」が20代は4~5割、10・30代男性も3割前後いる。
- ▶ 前回調査 (H29) と比較すると、全体的に参加率は微増。10代、20・30代男性、40代女性で「関心なし+不参加」の割合が増加。

参加の機会・方法のさらなる多様化を！

## ☑ 20~50代で土曜日が毎週休日であるのは2割半。日曜日が毎週休日なのは5割強という状況。

- ▶ 働いている世代は、必ずしも土曜日が休日ではない。

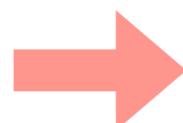
## ☑近所づきあいについては、半数以上が「悩みなし」



- ▶ 30~60代は、「わずらわしさ」が若干高め。
- ▶ 40・50代は「仕事・行事が多くて忙しすぎる」の割合が高く、多忙さ・負担の大きさを、より強く感じている。

これまでのやり方・活動内容を見直し、負担の軽減を図っていくことが不可避！

## ☑半数近くが移住・定住者の受け入れは必要と考えている



- ▶ 30代及び60代男性は「必要」という回答が2/3。

積極的に受け入れることを望む声が多い

## ☑他地域との交流の必要性は4割以上が「わからない」



- ▶ 年代・性別によって賛否がかなり分かれている。

地域としてはあまり積極姿勢ではない

## ☑誇りに思う地域資源（トップ5）

括弧内は前回調査（H29）からの増減

- ①景観・自然環境（42.2%）  
(▲4.1%)
- ②行事（24.5%）  
(▲8.4%)
- ③無い（18.8%）  
(+4.4%)
- ④特産物（14.8%）  
(+0.2%)
- ⑤暮らす人々（11.4%）  
(▲9.5%)



前回調査（H29）からの数値増減は、コロナ禍の影響を多分に受けた可能性があることを考慮する必要がある。

## ☑ 「この地域に住み続けたい」は地域全体では半数以上

- ▶ 10~20代の定住意向は3割以下、30~50代は4割前後と低い。  
ただし「わからない」も4~6割いる。
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、地域全体では横ばいだが、10代男性、40・50代女性の定住意向が大幅に低下。

## ☑ 「自分の子どもにも住み続けてほしい」は地域全体で4割

- ▶ 10~30代及び40・50代女性は「住み続けてほしいとは思わない」の方が多い。ただし、「わからない」も5~6割。
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、60代以下のほぼ大半で、子どもへの定住希望が低下。（元々低かった30代以下はさらに低下）

## ☑ 地域全体では6割が「地域に愛着がある」

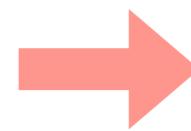
- ▶ 10代の愛着度は5割超と、地域全体から若干低い程度。
- ▶ 30~50代も4~5割は愛着あり。
- ▶ 地域全体では、前回調査（H29）よりも増加。若年層の愛着度は上昇している一方、40・50代は若干低下。

「わからない」が多いということは、これからの取り組み次第！

愛着があっても定住意向が低いのは、将来への希望・安心感が足りていないことが要因!?

## ☑まち協事業の認知度

- ▶ 「お幕場クリーン作戦」「花いっぱい事業」「広報紙発行」「敬老会支援」は6割以上が認知。
- ▶ 集落活動・防災・福祉関連の取り組みは、10~30代の認知度が低い。
- ▶ 「広報紙の発行」は10・20代の認知度が低め。



集落活動や防災・福祉関連の取り組みについて、内容・意義等を若年層に伝える機会は十分か？（関心の有無だけの問題か？）

## ☑まち協事業の重要度（トップ5）

- ①お幕場クリーン作戦
- ②集落支援事業
- ③花いっぱい事業
- ④広報紙の発行
- ⑤自主防災組織連絡会議

＜特定の年代で重要度が高い事業＞

- 【10~20代】平林小との連携・事業協力  
神林中との連携・事業協力
- 【30~40代】HP・SNS等での情報発信



年代によって意向は異なる。各々の考えをよく吟味して考えている必要があり。

＜特定の年代で重要度が低い事業＞

- 【30代～】平林小との連携・事業協力  
神林中との連携・事業協力



## ☑日々の暮らしの不安・心配ごと（トップ5）

- ①自分自身の健康面
- ②空き家が増えて管理が行き届かなくなる
- ③災害への備えや避難など防災・安全
- ④屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪
- ⑤親の介護や生活支援

<特定の年代で不安が大きい項目>

- 【10代】進学・就職+通学・学習環境
- 【10~50代】安定した収入
- 【30代】子育て環境
- 【70代】医療・福祉
- 【80代】交通手段

## ☑これからの地域づくりで大切なこと（トップ5）

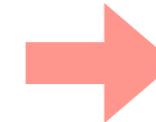
- ①子どもや若者が、住み続けたい・戻ってきたいと思える環境が整っている地域にする
- ②車の運転をしなくても、家族に負担を掛けずに安心して外出・移動できる地域にする
- ③思いやりをもって声をかけ合い、お互いの支え合い・助け合いが日常的にある地域にする
- ④安心・安全に暮らせるよう、常日頃から災害への備えをしている地域にする
- ⑤安定した収入が得られる仕事・産業を生み出していく

地域の暮らし・営みを持続可能なものとするための取り組み・将来への備えが、強く求められている。

ただし、年代によって上位にランキングされている内容は異なる。各々の内容をさらに深掘りしていくことが大切。

## ☑共助の担い手となる住民は潜在的にいる！

- ▶ 大半の作業項目で、「手伝ってほしい」よりも「手伝える」人数の方が多い。
- ▶ 作業項目によっては、若者・中堅世代も、それなりの人数が「手伝える」と回答。



お互いさまでの暮らしを支え合う仕組みを構築できれば、住民同士での共助が成立する土壌はある！

## ☑まち協再編の必要性を感じているのは1割

- ▶ 必要性を感じていない住民は2割。



再編の必要性を感じているのは一部のみ。